



サブサハラ・アフリカ地域における 物流・インフラプロジェクトの動向 (主要5カ国の国別分析)

日本貿易振興機構（ジェトロ）
調査部 ロンドン事務所
2026年3月

調査概要

目的

- 本調査の目的は、サブサハラ・アフリカ（SSA）地域における貿易ルートと連結性を、主要な港湾、空港、鉄道、道路網を網羅し、包括的に分析することである。
- 本分析の範囲は、マクロ経済・貿易概観、物流連結性、物流ハブ・インフラ、政策枠組み、主要プロジェクトを対象とする。

対象国

- 南アフリカ共和国
- ナイジェリア
- コージボワール
- タンザニア
- ガーナ

対象セグメント



港湾



空港



倉庫ハブ



道路



鉄道

参考

- 調査レポート：サブサハラ・アフリカ地域における物流・インフラプロジェクトの動向（主要7カ国の総合分析）（2026年2月）
- 地域・分析レポート特集：中東・アフリカにおける物流とインフラプロジェクトの動向を探る

免責事項：

本レポートは、日本貿易振興機構（JETRO）ロンドン事務所が現地調査会社GlobalData UK Ltdに作成委託した調査報告書（英語）の内容を日本語に翻訳し取りまとめたものです。本レポートは主として2025年10月時点の情報を基に作成しています。

本レポートに記載されているルートは、説明を目的とするものであり、実際のルートを示すものではありません。

本レポートにて提供される情報等については、正確性、完全性、目的適合性、最新性を保証するものではありませんので、当該情報等の採否は、お客様自身の判断、責任において行ってください。本レポートでの提供情報等に関連して、お客様が不利益等を被る事態が生じたとしても、JETRO（およびGlobalData UK Ltd）はお客様に対し一切の責任を負わないものとします。

用語の定義

用語	定義
グローバル・コネクティッドネス指数 (GCI)	<p>グローバル・コネクティッドネス指数 (Global Connectedness Index : GCI) は、国境を越える貿易・資本・情報・人の流れ (国際フロー) に着目して、各国が世界とどれだけ結びついているかを示す。これらの国際フローの深さ (国内活動に対する比率) と広がり (どれだけ多くの地域とつながっているか) を総合的に評価する。</p> <p>(出所) DHL</p>
定期船接続性指数 (LSCI)	<p>定期船接続性指数 (Liner Shipping Connectivity Index : LSCI) は、各国が世界の定期船ネットワークにどれほど組み込まれているかを示す。世界市場へのアクセスは、特に製造品の輸出入に利用される定期船サービスに大きく依存する。数値が高いほど、国としての接続性が高いことを意味する。</p> <p>LSCIは次の6つの要素から算出される。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 毎週の定期船寄港数 (年間スケジュールに基づく週平均値)(2) 年間のコンテナ輸送能力 (20フィートコンテナ換算単位 : TEU)(3) 定期船サービス本数(4) サービスを提供する船会社数(5) 就航する最大船舶の規模 (TEU)(6) 直行サービスで接続する国の数 (直行サービスとは、途中寄港があってもコンテナの積替えは発生しない定期サービス) <p>(出所) UNCTAD</p>
港湾定期船接続性指数 (PLSCI)	<p>港湾定期船接続性指数 (Port Liner Shipping Connectivity Index : PLSCI) は、特定の港湾が世界の定期船ネットワークにおいてどの程度の接続性を有しているかを示す。数値が高いほど、港湾としての接続性が高いことを意味する。PLSCIは、2023年第1四半期 (Q1) の平均を100として指数化され、LSCIと同一の6要素を用いて算出される。ただし、観測単位は港である。</p> <p>(出所) UNCTAD</p>

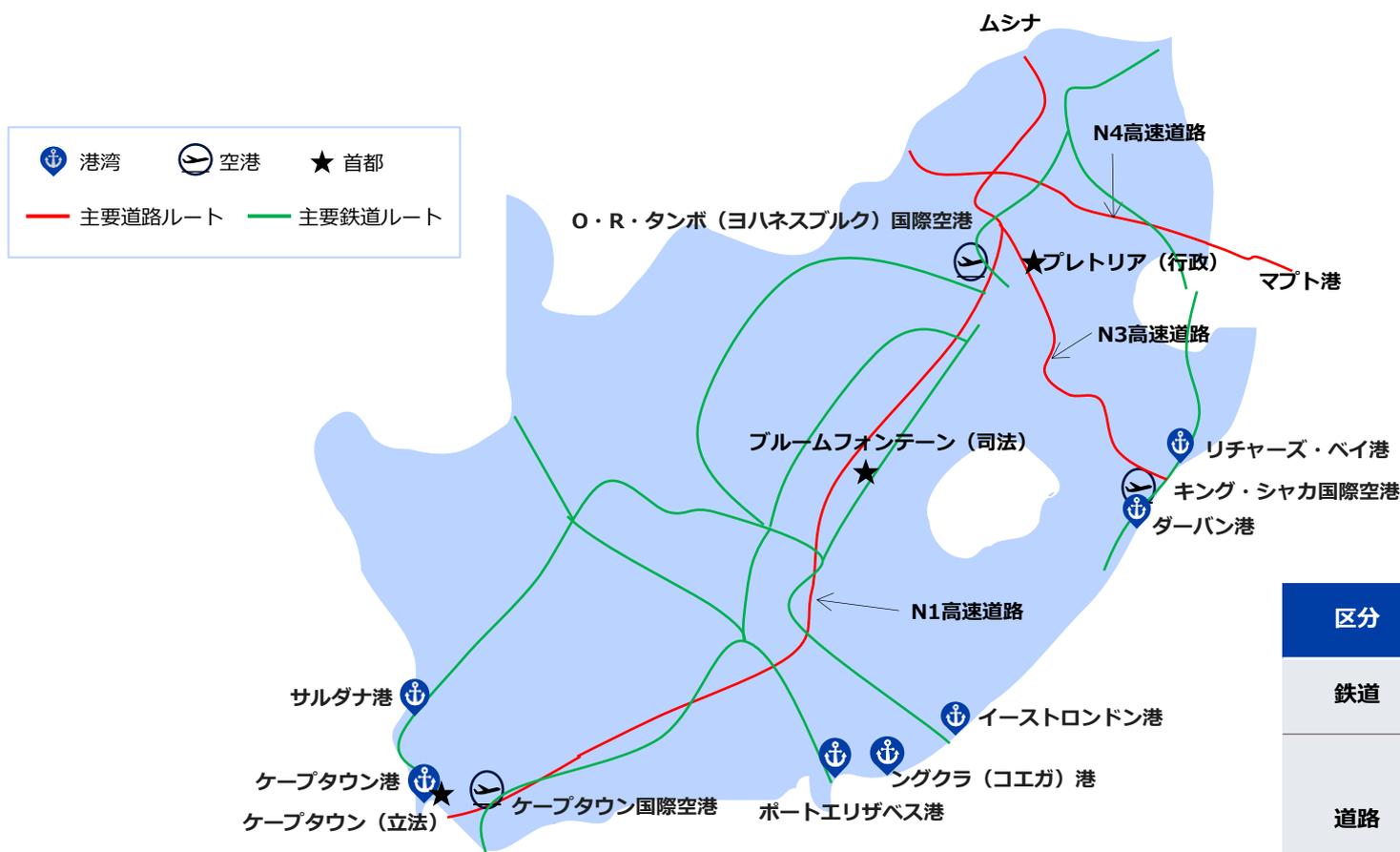
目次

I.	南アフリカ共和国	5
II.	ナイジェリア	17
III.	コートジボワール	29
IV.	タンザニア	40
V.	ガーナ	56

I. 南アフリカ共和国

1 | インフラ分析（計画含む）

- 南アフリカ共和国（南ア）は、域内貿易の統合を進めるため、鉄道貨物の年間輸送量を2億5,000万トン規模に拡大することを目標に、鉄道を軸に陸海の輸送をつなぐ物流ネットワークの整備を進めている。



区分	現状の規模
鉄道	約1億6,080万トン
道路	75万km 舗装道路：15万8,124km 未舗装道路：59万1,876km

（注1）地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。なお、各ルートには建設中・計画中の区間が含まれる場合がある。

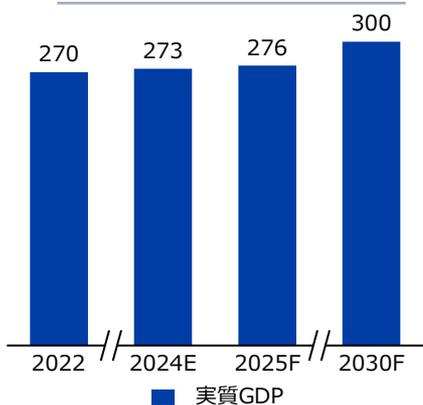
（注2）プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

（出所）UNCTAD、GlobalData

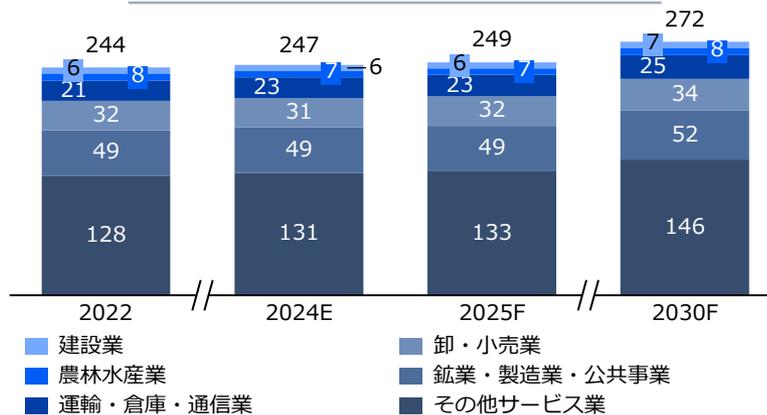
2 | マクロ経済概観

- 南アは緩やかなGDP成長を維持しているが、商品価格の下落、物流面の制約、輸入コストの上昇、輸出の多様化不足が複合的に作用し、貿易黒字は縮小している。

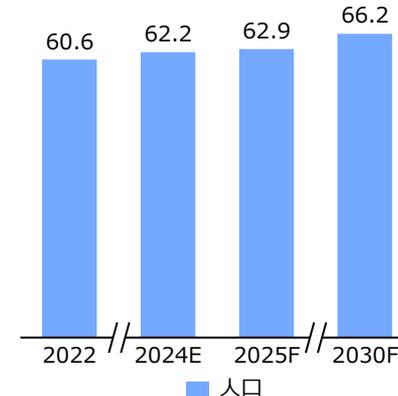
実質GDP (10億ドル)



産業別実質付加価値額 (10億ドル)



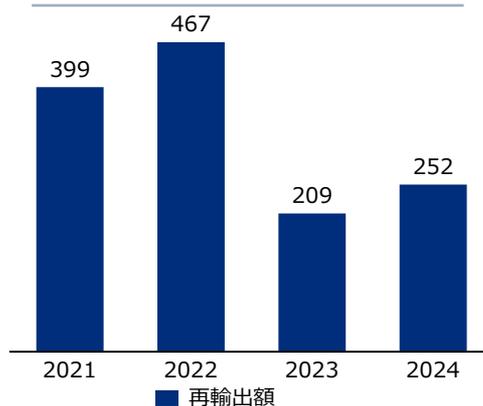
人口 (100万人)



貿易額 (10億ドル)



再輸出貿易額 (100万ドル)



主要輸出入品目 (2024年)

輸出品目	構成比	輸入品目	構成比
貴金属・貴石類 (真珠・宝飾品・コインを含む)	18.7%	鉱物燃料	19.4%
鉱石・スラグ・灰	15.6%	機械類 (部品・ボイラー等を含む)	12.8%
鉄道以外の車両	11.4%	電気機器およびその部品	9.7%
鉱物燃料	9.6%	その他指定のない商品	8.1%
その他	44.7%	その他	50.0%

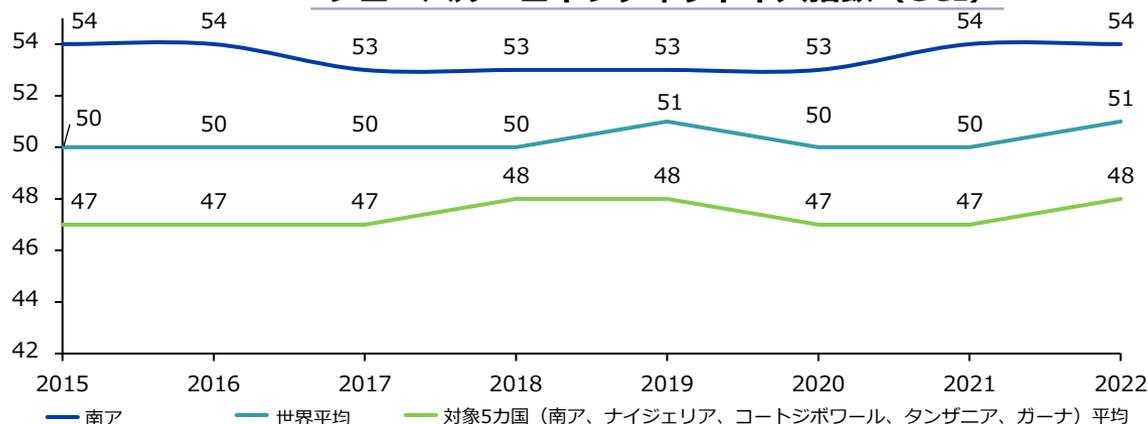
輸出総額：1,104億ドル 輸入総額：1,012億ドル

(注) Eは暫定値、Fは予測値を表す。
(出所) ITC、GlobalData

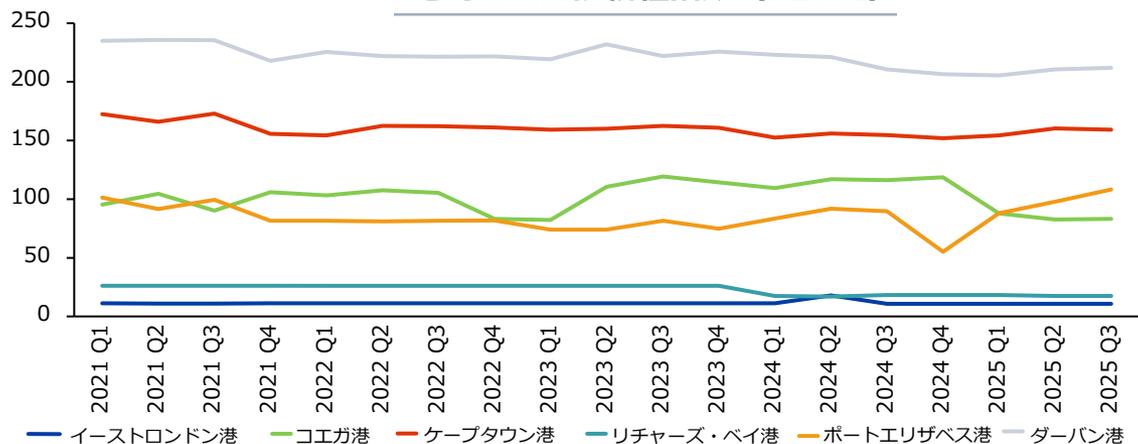
3 | 貿易・物流接続性

- 南アでは、港湾・鉄道の改革やアフリカ大陸自由貿易圏（AfCFTA）の進展、デジタル貿易政策の強化により、域内外との接続性が高まり、物流競争力の再構築が進んでいる。

グローバル・コネクティッドネス指数（GCI）



港湾定期船接続性指数（PLSCI）



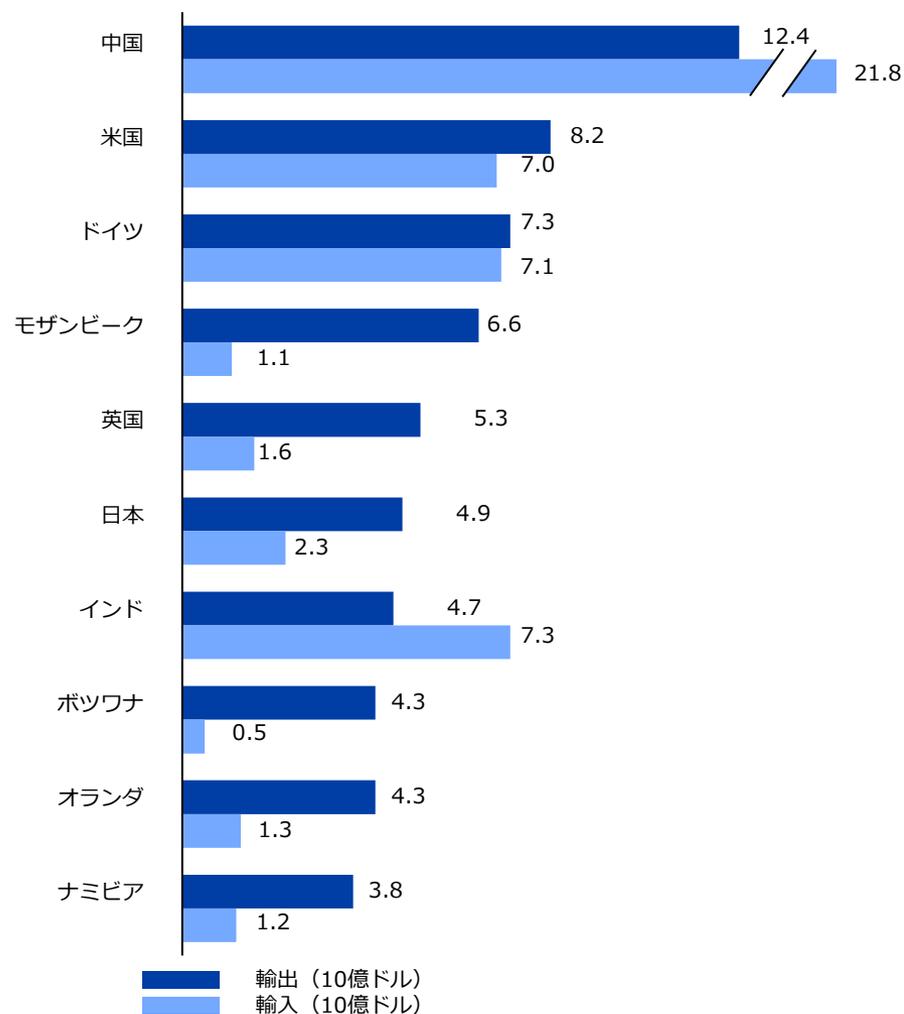
（出所） DHL、UNCTAD

- 南アのグローバル・コネクティッドネス指数（GCI）の相対的な高さは、政府の国家ICT統合政策と総合的であり、通関手続の電子化や電子商取引における貿易円滑化の進展を示唆している。
- ケープタウン港とダーバン港の港湾定期船接続性指数（PLSCI）は、アフリカの主要海運拠点の中で最も高い水準を維持している。この安定した接続性は、港と内陸を結ぶコンテナ輸送の主要回廊の整備や、大型船に対応できる水深の確保に向けた投資によって支えられている。
- AfCFTAの運用開始後、域内貿易は拡大が見込まれる。これに対応して、内陸国向けの港湾アクセスや地域内フィーダー網の拡充が必要であり、例えばマプト・ダーバン回廊と南ア内陸部に位置するハウテン州を結ぶ海陸連携の強化が挙げられる。

4 | 主要貿易相手国

- 南アの最大の貿易相手国は中国であり、特に輸入の依存度が高い。米国、ドイツがこれに次ぐ主要国である。モザンビーク、ボツワナ、ナミビアとの地域的な結びつきは依然として強い。

貿易統計（2024年）



(出所) UNCTAD

5 | 主要貿易ルート



- 南アは大西洋とインド洋の両方に面し、古くから海上交通の要衝として重要な位置を占めてきた。2024年初頭には紅海情勢の混乱により、多くの船舶が南アの喜望峰回りに迂回したことで、この航路の通行量が大幅に増加した。これにより、サブサハラ最大の港であるダーバン港の重要性はさらに高まった。
- 南アは、南北回廊をはじめとする国際回廊を通じて、南部アフリカ開発共同体（SADC）が整備する地域幹線道路網（RTRN）の中核を構成している。また、国内の国家幹線道路であるN1、N3、N4も地域貿易を支える重要なルートであり、特にN4はマプト港へ直接つながる路線として国際物流上の重要性が高い。

(注) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。
(出所) UNCTAD、GlobalData

7 | 主要な物流ハブ

- 南アは、広範な港湾・空港・鉄道インフラを基盤に、サブサハラ・アフリカ向け物流の中心的拠点として重要な役割を果たしている。



物流拠点



物流ゾーン	面積	主な用途/商品
DSVパーク・ハウテン	13万㎡	EC向け一般貨物対応
イーストポート物流パーク	50万㎡	EC向け一般貨物・消費財対応
コルヌビア産業・商業団地 (CIBE)	70万㎡	一般倉庫・軽工業向け
ギバ工業団地 (開発中)	20万㎡	一般倉庫・軽工業向け
タンボ・スプリングス物流パーク (開発中)	607万㎡	鉄道・道路統合型物流ハブ
クレアウッド物流パーク (開発中)	36万㎡	一般貨物対応

- O・R・タンボ（ヨハネスブルク）国際空港周辺は、南ア最大の内陸物流クラスターを形成しており、空港貨物と主要高速道路が結節する戦略的な物流立地となっている。同エリアには、DSV パーク・ハウテンやイーストポート物流パーク、開発中のタンボ・スプリングス物流パークなどの物流拠点が集積している。
- 南ア全体のコンテナ貨物の約60%を取り扱うダーバン港の周辺は、港湾施設と周辺道路網へのアクセス性を活かした戦略的な物流エリアを形成している。同エリアには、コルヌビア産業・商業団地（CIBE）や開発中のクレアウッド物流パークとギバ工業団地などの物流拠点が集積している。

(注1) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。

(注2) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

8 | 主要インフラ

施設名	年間貨物取扱能力	拡張計画	公式ウェブサイト
O・R・タンボ（ヨハネスブルク）国際空港	65万トン	—	https://www.airports.co.za/airports/or-tambo-international-airport
キング・シャカ国際空港	—	—	https://www.airports.co.za/airports/king-shaka-international-airport
ケープタウン国際空港	—	—	https://www.airports.co.za/airports/cape-town-international-airport
イーストロンドン港	76万トン	—	https://www.transnetnationalportsauthority.net/OurPorts/East%20London/Pages/Overview.aspx
ポートエリザベス港	40万TEU	—	https://www.transnetnationalportsauthority.net/OurPorts/Port%20Elizabeth/Pages/Overview.aspx
ケープタウン港	90万TEU	140万TEUへの拡張計画	https://www.transnetnationalportsauthority.net/OurPorts/Cape%20Town/Pages/Overview.aspx
ダーバン港	360万TEU	—	https://www.transnetnationalportsauthority.net/ourports/durban/pages/overview.aspx
ングクラ（コエガ）港	120万TEU	280TEUへの拡張計画	https://www.transnetnationalportsauthority.net/ourports/ngqura/pages/overview.aspx
リチャーズ・ベイ港	120万TEU	—	https://www.transnetnationalportsauthority.net/ourports/richardsbay/pages/overview.aspx

9 | 政府のビジョン・戦略・規制

政府のビジョンと戦略

国家インフラ計画2050（NIP2050）

南ア政府は、経済成長を支える基盤として、エネルギー・貨物輸送・水・デジタル通信を中心とした重要インフラの強化を重点に据えている。これらの整備に向けて、公的資金と民間資金を組み合わせるブレンデッド・ファイナンスや民間参加（PPP）の拡大などを推進している。

国家貨物物流ロードマップ（2023年～2050年）

南ア政府は、貨物輸送ネットワークの近代化と統合を進める長期戦略を策定し、物流回廊の性能向上、物流コストの削減、貿易競争力の強化を目標としている。道路輸送から鉄道輸送への転換、港湾・空港の運営効率化、複合物流拠点の整備を主要施策として掲げている。



主要な関連規制

輸出入関連

南ア国内のすべての輸出業者および輸入業者は、南アフリカ歳入庁（SARS）への登録が必要である。輸出入許可が必要な製品については、貿易産業競争省（DTIC）のImport and Export Permit（輸入・輸出許可証）または関連各省に輸出入許可を事前に申請する。また、プラグ付きの電化製品などを南ア国内に輸入・販売するためには製造・輸入者が事前に南ア国家強制基準監督局（NRCS）から承諾書（Letter of Authority : LOA）を取得しておく必要がある。

10 | 主要プロジェクト (1)

プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
ボハベイ (Boegoebaai) 港湾・鉄道計画	南ア運輸公社トランスネットの港湾局 (TNPA)	港湾・鉄道	計画中
エスワティニ鉄道接続計画	南ア運輸公社トランスネット、エスワティニ鉄道	鉄道	建設中
ケープタウン港コンテナターミナル改良計画	南ア運輸公社トランスネットの港湾ターミナル運営部門 (TPT)	港湾	建設中
ダーバン港第2コンテナターミナル近代化計画	南ア運輸公社トランスネットの港湾局 (TNPA)	港湾	建設中
ケープワインランド空港開発計画	RSA.Aero (民間企業)	空港	計画中
ママブラ (ボツワナ) - レファラレ国境連絡鉄道計画	南ア運輸公社トランスネットの貨物鉄道部門 (TFR)、ボツワナ鉄道	鉄道	計画中
ダーバン港メイドン埠頭ターミナル改修計画	南ア運輸公社トランスネットの港湾局 (TNPA)	港湾	計画中

(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。
(出所) GlobalData

10 | 主要プロジェクト (2)

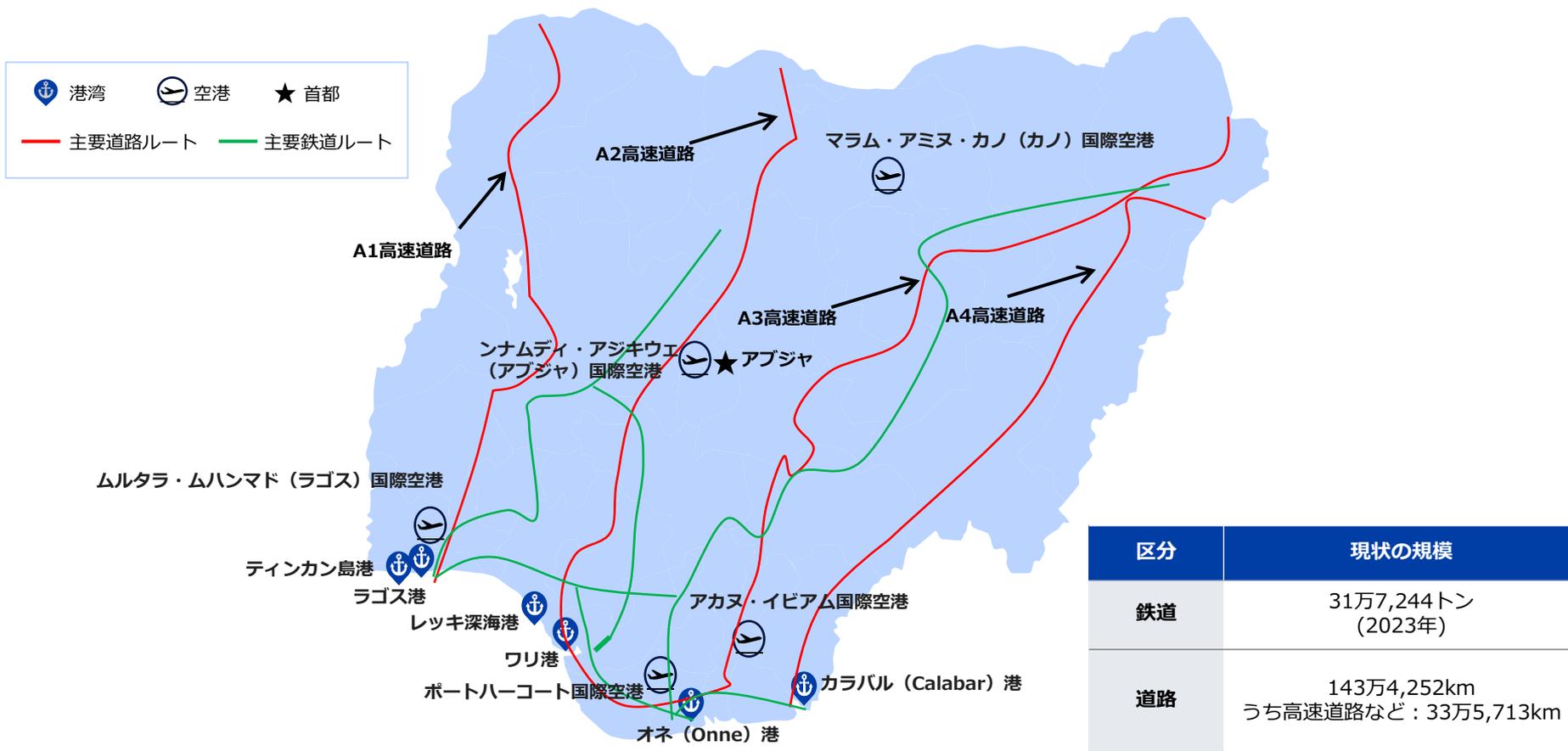
プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
ブルーダウンス鉄道連絡線計画 (カエリチャ線とベルビルー ストランド線の接続計画)	南ア旅客鉄道公社 (PRASA)	鉄道	計画中
ダーバン鉄道回廊復旧計画 (クワマシュ回廊・ブリッジシティ区間・ウムラジ回廊)	南ア旅客鉄道公社 (PRASA)	鉄道	計画中
マプト回廊 (N4有料道路) 改修計画	南ア道路管理国有会社 (SANRAL)	道路	建設中
N2道路18区間 (ヴィエッジズビルー ムタタ) 改良計画	南ア道路管理国有会社 (SANRAL)	道路	計画中
N1道路28区間 (ドワルスリヴィエー ルイ・トリハルト) 改良計画	南ア道路管理国有会社 (SANRAL)	道路	計画中

(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。
(出所) GlobalData

Ⅱ. ナイジェリア

1 | インフラ分析（計画含む）

- ナイジェリア政府が推進するインフラ投資とデジタル変革は、西部・中部アフリカにおける主要な物流・貿易拠点としての成長を支える基盤となっている。



(注1) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。なお、各ルートには建設中・計画中の区間が含まれる場合がある。

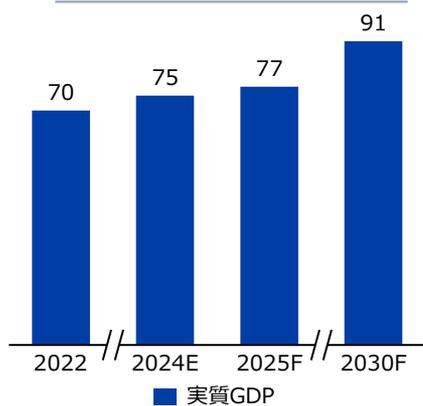
(注2) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) IATA、GlobalData

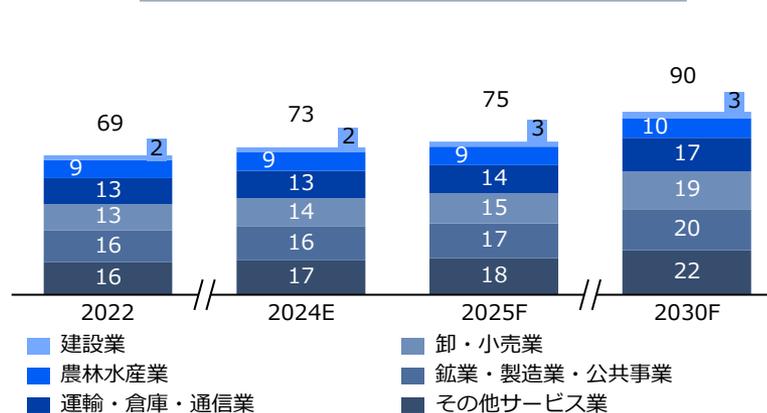
2 | マクロ経済概観

- ナイジェリア経済は、鉱物燃料輸出を中心に、堅調な GDP 成長と産業の多様化が進む一方、依然として高い輸入依存が特徴である。

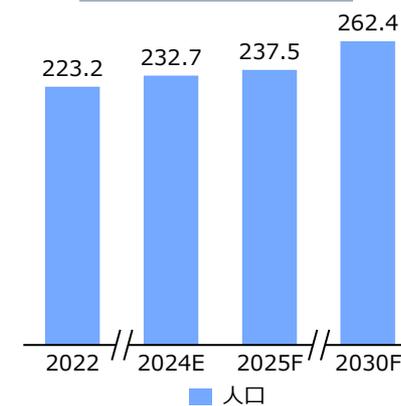
実質GDP（10億ドル）



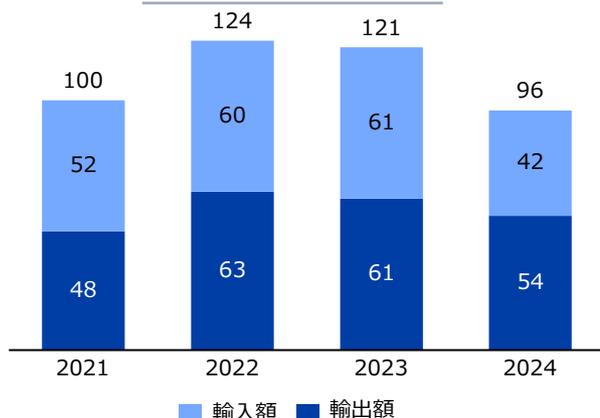
産業別実質付加価値額（10億ドル）



人口（100万人）



貿易額（10億ドル）



主要輸出入品目（2024年）

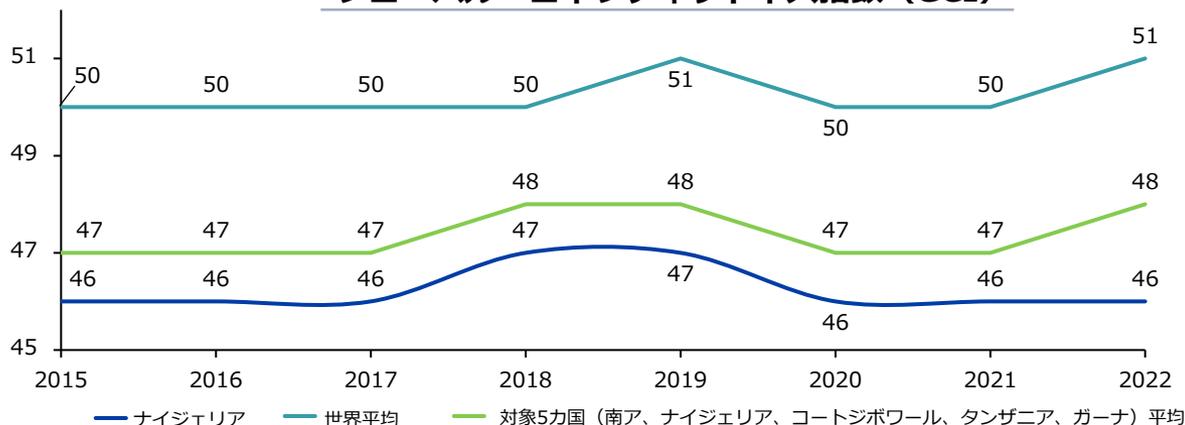
輸出品目	構成比	輸入品目	構成比
石油・石油製品	88.6%	石油・石油製品	38.0%
ココア・ココア調製品	3.7%	機械類（部品・ボイラー等を含む）	10.6%
肥料	1.6%	鉄道以外の車両	5.7%
油糧種子・油糧果実	1.3%	電気機器およびその部品	5.7%
その他	4.8%	その他	40.0%
輸出総額：540億ドル		輸入総額：420億ドル	

(注) Eは暫定値、Fは予測値を表す。
(出所) ITC、GlobalData

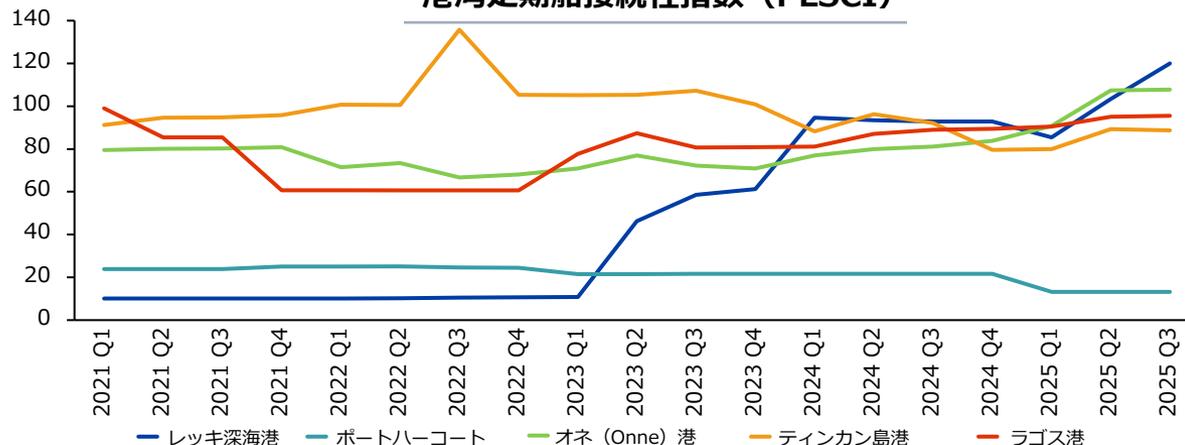
3 | 貿易・物流接続性

- 近代化された港湾、デジタル貨物システム、規制改革の進展により、ナイジェリアの輸出能力、中継貿易機能、国際市場との接続が強化されている。

グローバル・コネクティッドネス指数 (GCI)



港湾定期船接続性指数 (PLSCI)

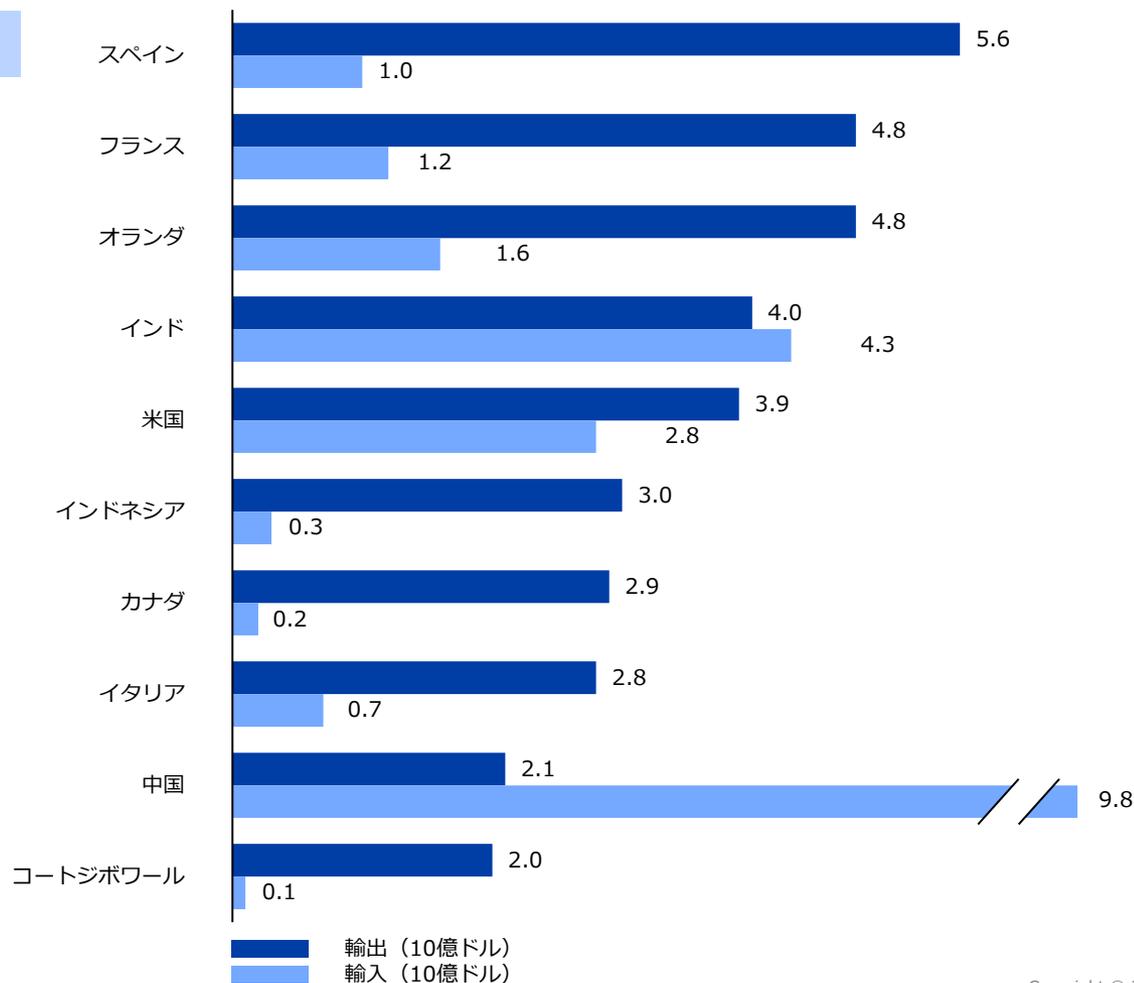


- アパバ港、ティンカン島港、オネ (Onne) 港の近代化に加え、レッキ深海港での自動化された貨物処理の導入により、大型船舶の効率的な取り扱いが可能となり、輸送コスト削減や輸出リードタイム短縮、内陸部との接続性が進展している。これらの取り組みは、AfCFTAの下で域内貿易を拡大する基盤となる。
- 国家シングルウィンドウ (NSW) プロジェクトの開始により、物流プロセスの効率化、港湾接続性の強化、主要経済セクターにおける輸出入業者の通関時間短縮が進展している。
- 2025年のNPA運賃規制 (変動運賃) の導入と港湾デジタル化の継続的な推進により、港湾インフラの近代化が進み、国内外の荷主による寄港の増加につながりつつある。こうした港湾機能の高度化は、港湾定期船接続性指数 (PLSCI) の動向にも表れており、ナイジェリアはアフリカ主要航路における中継拠点としての存在感を高めている。
- ナイジェリアのグローバル・コネクティッドネス指数 (GCI) は、世界平均並みの水準にある。近年の港湾・物流開発の進展により、ナイジェリア企業には、世界市場へのアクセス拡大や輸出ポートフォリオの多様化、そして国際取引の拡大につながる新たな機会が生まれている。

4 | 主要貿易相手国

- スペイン、フランス、オランダ、インドがナイジェリアの主要な輸出先である一方、輸入は中国が最多である。

貿易統計（2024年）



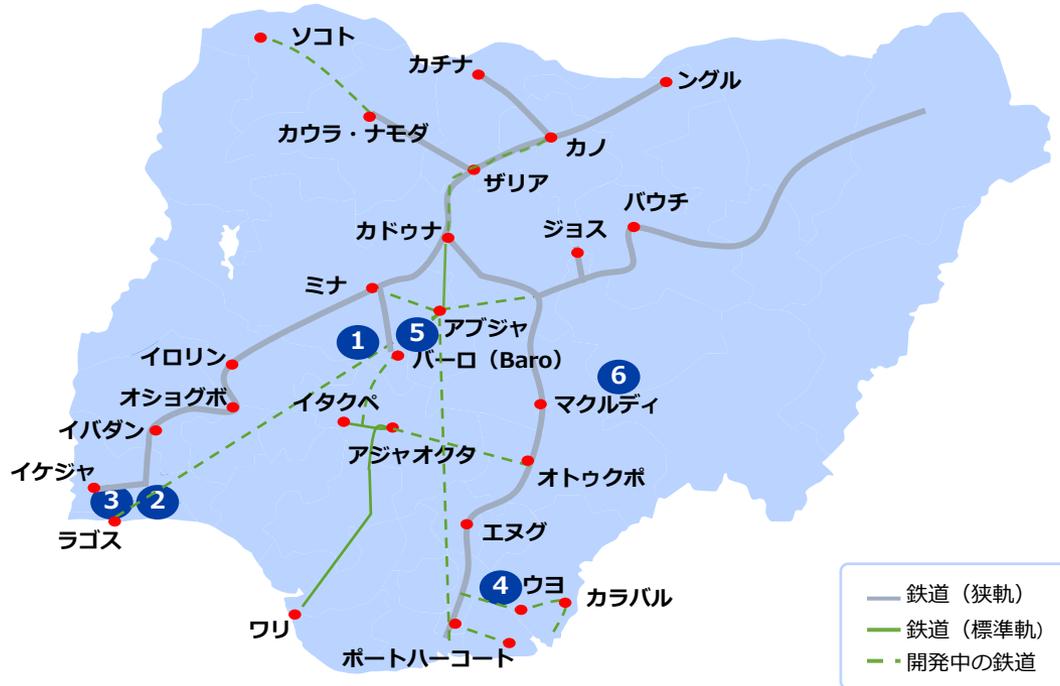
5 | 主要貿易ルート



- アジアやヨーロッパからの国際貨物は、主要な外航コンテナ航路によってギニア湾経由でラゴス港に集まってくる。ラゴス港を経由した貨物は、国内の道路・鉄道・内陸水路ネットワークを通じて、ナイジェリア各地の市場へ配送されている。
- ナイジェリアの主要なエネルギー輸出である LNG は、ボニー島ターミナルから欧州・アジア・北米へ出荷されている。また、コンテナ物流については、ラゴスとダカール（セネガル）、アビジャン（コートジボワール）を結ぶ沿岸フィーダー航路が整備され、西アフリカ域内の物流連携が強化されている。こうした国際輸出と域内ネットワークの両面から、ナイジェリアは海上物流の拠点としての役割を高めている。
- ラゴス港複合施設は、十分な深水を備えたバースや、8メートル級の大型貨物ゲート、道路・鉄道・内陸水路が連携する複合輸送網を備えており、これにより貨物取扱効率が向上し、滞留時間が短縮されている。こうした設備整備により、多様な民間ターミナル事業者の参入が進み、港湾サービスの拡充につながっている。
- アビジャン - ラゴス回廊高速道路とラゴス - カラバル回廊高速道路の開発は、レッキ深海港と連動して、ギニア湾沿岸全域を結ぶマルチモーダルネットワークを形成し、ナイジェリアをAfCFTAの中核的な物流ハブとして位置付けることが期待されている。

(注) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。
(出所) UNCTAD、GlobalData

6 | 主要な今後のプロジェクト



NO.	プロジェクト名
1	高速鉄道計画
2	エスクラボス港工業団地計画
3	バダグリ港・フリーゾーン計画
4	アビア州農村道路改良事業計画
5	バーロ（Baro）港道路接続改善計画
6	ベヌエ空港開発

①高速鉄道計画

ラゴス、アブジャ、カノ、ポータルハーコートをつなぐ高速鉄道のフェーズ1は、港湾と内陸都市の結節を強化することで、輸送時間の大幅な短縮や物流コストの削減、国内・地域貿易の競争力向上につながる。

②エスクラボス港工業団地計画

内陸物流拠点との接続機能と、フリーゾーンや工業団地を備えた新たな深海港を整備することで、既存港湾の混雑を緩和し、ナイジェリア広域をカバーするハブ港を形成する。

(注1) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。

(注2) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) MEED Projects, GlobalData

7 | 主要な物流ハブ

- ナイジェリアの物流インフラは、電子商取引の拡大、港湾の近代化、貿易活動の増加を背景に急速に発展している。



物流拠点	面積	主な機能
TYロジスティクスパーク (TY Logistics Park FZE)	2.9万㎡	一般倉庫・軽工業向け
ジュミア統合物流センター	3万㎡	EC向け一般貨物対応
アジリティ流通団地	27万㎡	一般貨物対応
ラゴス中央食糧安全保障システム・ロジスティクス (LHP) ハブ (開発中)	約11万㎡	農産物対応

TYロジスティクスパーク (TY Logistics Park FZE) : レッキ・フリーゾーンに立地。高度な倉庫管理システムを備える。

ジュミア統合物流センター : ラゴスに立地。ECプラットフォーム大手ジュミアが運営するEC特化型の大型統合物流センター。分散していた倉庫を統合し、入庫・仕分け・発送を一貫処理する体制を構築したことで、配送時間の短縮と処理能力の向上を実現している。

アジリティ流通団地 : ラゴス北部に立地。国際物流不動産デベロッパー (Agility Logistics Parks) が運営する物流拠点。敷地は順次拡張されている。

ラゴス中央食糧安全保障システム・ロジスティクス (LHP) ハブ : ラゴス東部に立地。食料物流に特化したナイジェリア最大級のハブとして開発中の国家的プロジェクトで、乾物・生鮮・冷蔵食品の集荷、再包装、加工、保管、出荷までを一体処理できる総合食品物流施設。

(注1) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。

(注2) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

8 | 主要インフラ

施設名	拡張計画	公式ウェブサイト
ムルタラ・ムハンマド（ラゴス）国際空港	第2ターミナル1万5,000㎡拡張計画	https://faan.gov.ng/mmia-lagos/
ンナムディ・アジキウエ（アブジャ）国際空港	—	https://faan.gov.ng/naia-abuja/
アカヌ・イビラム国際空港	新貨物ターミナル整備計画	https://faan.gov.ng/akanu-ibiam-international-airport/
ラゴス港複合施設	—	https://nigerianports.gov.ng/lagos-port/
ティンカン島港	喫水深度16.5mへの増深計画	https://nigerianports.gov.ng/tincan/
カラバル（Calabar）港	—	https://nigerianports.gov.ng/calabar/
オネ（Onne）港	—	https://nigerianports.gov.ng/onne/

9 | 政府のビジョン・戦略・規制

政府のビジョンと戦略

国内物流競争力の強化

ナイジェリア政府は、鉄道や港湾の近代化を通じて物流基盤の強化を進めている。また、主要港湾の電化や太陽光発電・蓄電池の導入など、環境負荷低減を目的とした取り組みも計画されている。さらに、国家単一窓口（NSW）は2026年の稼働を予定しており、行政手続の電子化と統合によって通関時間の短縮や重複手続の解消を図る。

域内市場との統合

ナイジェリアは2025年7月、AfCFTAにおける5年間実施レビューを完了した最初の加盟国となった。この成果を踏まえ、AfCFTA市場で生産・イノベーション・貿易の中心的役割を担うことを戦略目標として掲示している。また、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）の貿易自由化スキーム（ETLS）を通じて域内の無税貿易が継続されており、2022～2026年の共通対外関税（CET）枠組みの下で、0～35%の五段階の関税帯が運用されている。

主要な関連規制

関税・通関関連

2023年ナイジェリア税関法は、2023年4月20日に法制化され、関税および物品税行政を改革するための法的・制度的枠組みを提供している。

港湾関連

ナイジェリア港湾庁法（2004年）は、港湾の管理と規制を担う法定機関としてナイジェリア港湾局（NPA）を設置している。

運輸関連

ナイジェリア国家運輸政策は、運輸分野全体の発展と規制の方向性を示す包括的枠組みであり、安全性、環境配慮、効率性、費用負担の適正化、統合的な運輸システムの構築を主な目的としている。

航空関連

2006年民間航空法（2022年改正）は、ナイジェリアの民間航空分野を規制し、航空分野の規制機関としてナイジェリア民間航空局（NCAA）を設置している。

10 | 主要プロジェクト (1)

プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
高速鉄道計画 (フェーズ1: ラゴス - アブジャ - カノ - ポートハーコート間)	ナイジェリア運輸省、ナイジェリア鉄道公社	鉄道	計画中
エスクラボス港工業団地計画	ナイジェリア港湾局	港湾	計画中
バダグリ港・フリーゾーン計画	ナイジェリア港湾局	港湾	計画中
ソコト - バダグリ高速道路計画 (フェーズ1)	ナイジェリア連邦公共事業省	道路	建設中
ムルタラ・ムハンマド国際空港改修計画	ナイジェリア連邦空港局	空港	建設中
レッキ・エペ国際空港計画 (フェーズ1)	ラゴス州政府	空港	計画中
カノ - マラディ鉄道計画	ナイジェリア運輸省	鉄道	建設中
カラバル - オブドゥ鉄道計画	クロスリバー州政府	鉄道	建設中

(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。
(出所) GlobalData

10 | 主要プロジェクト (2)

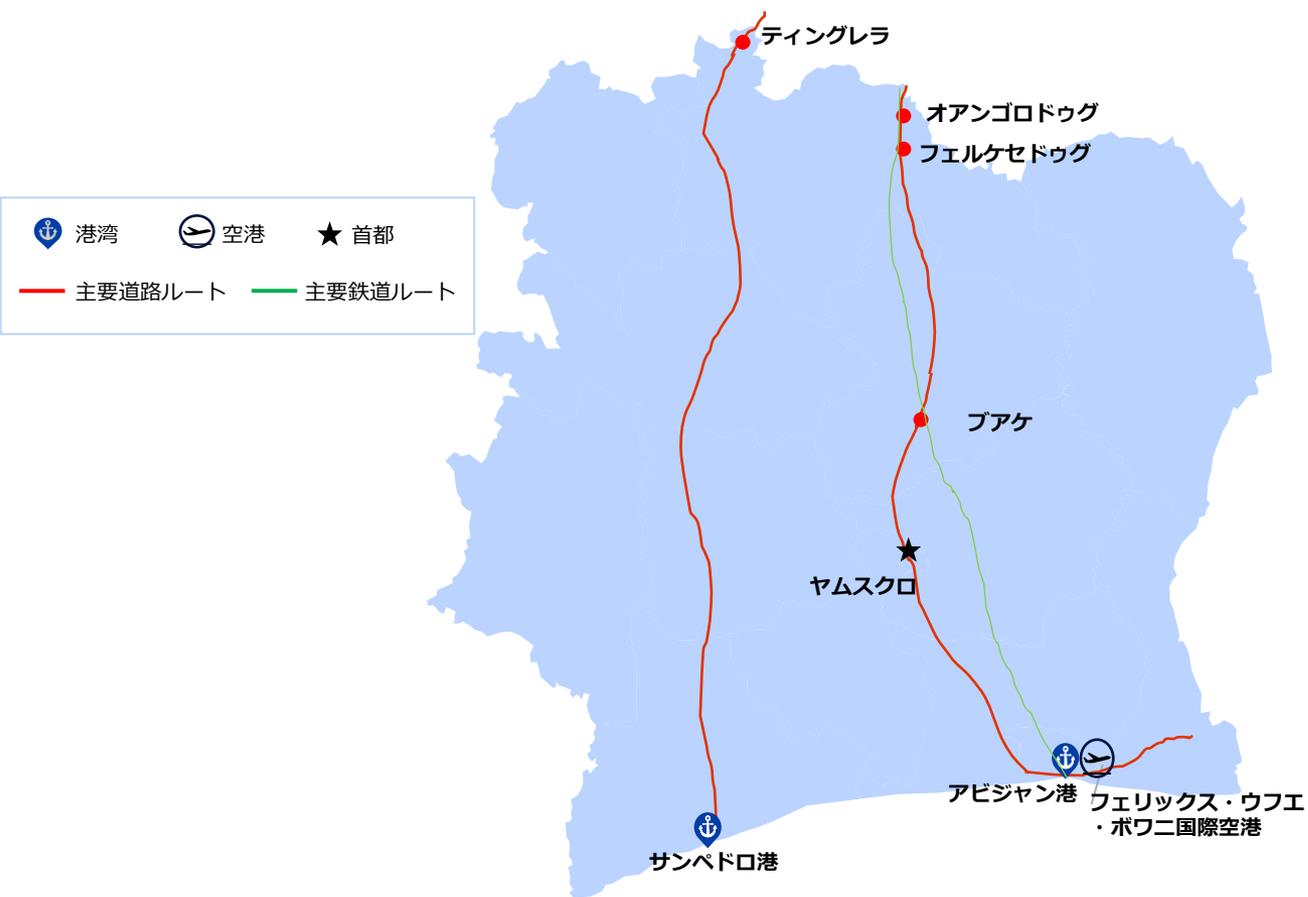
プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
アビア州農村道路改良事業計画	世界銀行、フランス開発庁、ナイジェリア農業・地方開発省	道路	計画中
オヨ州農村道路改良事業計画	世界銀行、フランス開発庁、ナイジェリア農業・農村開発省	道路	建設中
グサウ国際空港計画	ザムファラ州政府	空港	建設中
ミナ - ビダ道路複線化事業計画 (フェーズ2: ガラトゥ - カカブカンギ間、フェーズ3: カカブカンギ - ビダ間)	ナイジェ州政府、イスラム開発銀行、アブダビ開発基金	道路	建設中
バー口 (Baro) 港道路接続改善計画	ナイジェリア海洋・ブルーエコノミー省、ナイジェリア運輸省	道路	計画中
ベニンシティ - アグボ道路再建計画	エド州政府	道路	建設中
ベヌエ空港開発計画	ナイジェリア航空省、ベヌエ州政府	空港	計画中

(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。
(出所) GlobalData

Ⅲ. コートジボワール

1 | インフラ分析（計画含む）

- コートジボワールは、2030年までに地域貿易の連結性と物流効率を高めるため、輸送回廊の整備や港湾能力の拡充など、主要インフラの強化を進めている。



カテゴリー	現在の容量
港湾	4,100万トン
鉄道	73万8,200トン (2023)
道路	8万2,090km 舗装道路：6,743km 未舗装道路：7万5,347km

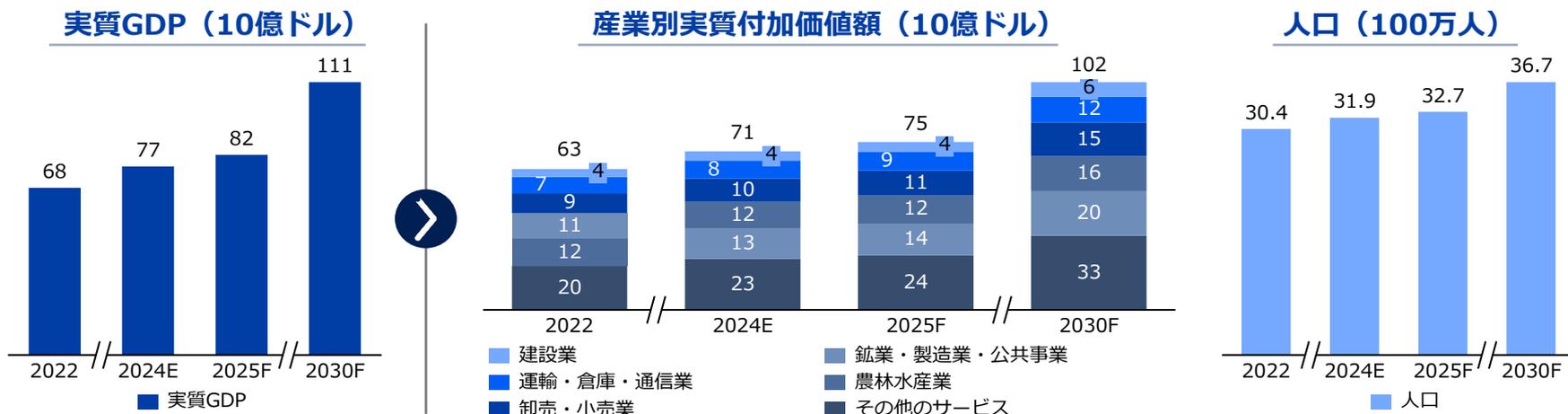
(注1) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。なお、各ルートには建設中・計画中の区間が含まれる場合がある。

(注2) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) UNCTAD、GlobalData

2 | マクロ経済概観

- コートジボワールは、インフラの拡充、輸出の多様化、安定した貿易実績を背景に、堅調な経済成長を示している。



主要輸出入品目 (2024年)

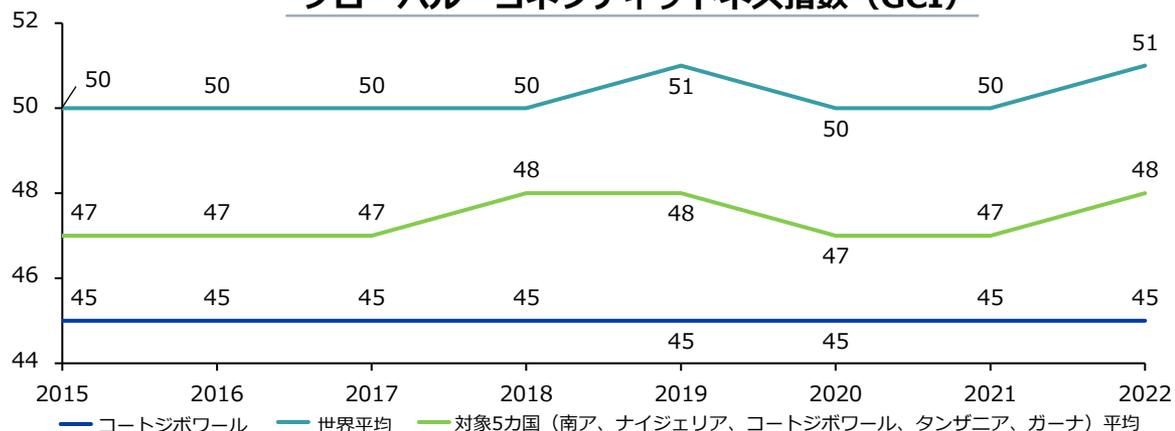
輸出品目	構成比	輸入品目	構成比
ココア・ココア製品	35.0%	鉱物燃料・石油	26.9%
貴金属・貴石類 (真珠・宝飾品・コインを含む)	15.3%	機械類 (部品・ボイラー等を含む)	9.3%
鉱物燃料・石油	15.1%	穀物	7.4%
ゴム・ゴム製品	12.0%	鉄道以外の車両	6.4%
その他	22.6%	その他	50.0%
輸出総額 : 205億ドル		輸入総額 : 172億ドル	

(注) Eは暫定値、Fは予測値を表す。
(出所) ITC、GlobalData

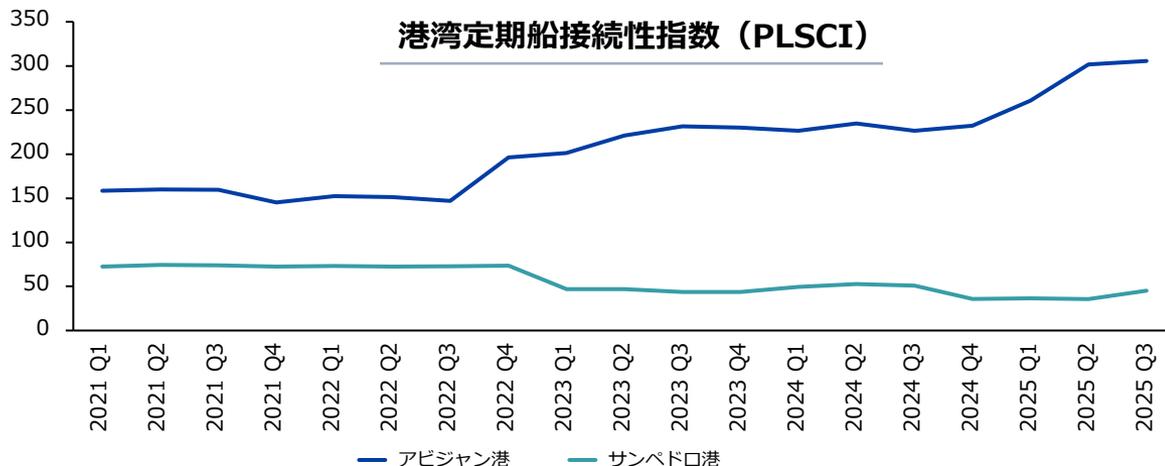
3 | 貿易・物流接続性

- アビジャン港の機能強化により、コートジボワールは主要物流拠点として西アフリカ地域での競争力を高めている。

グローバル・コネクティッドネス指数 (GCI)



港湾定期船接続性指数 (PLSCI)



• コートジボワールの主要港であるアビジャン港では、新ターミナル整備や港湾改良が進み、大型船舶の受け入れ能力と貨物取扱能力が強化されている。こうした近代化を背景に、世界最大のコンテナ船社であるMSCをはじめ国際海運会社の寄港が増加し、同国を經由する貨物流通も拡大している。その結果、アビジャン港は西アフリカ地域における重要なゲートウェイとしての地位を一段と強めている。

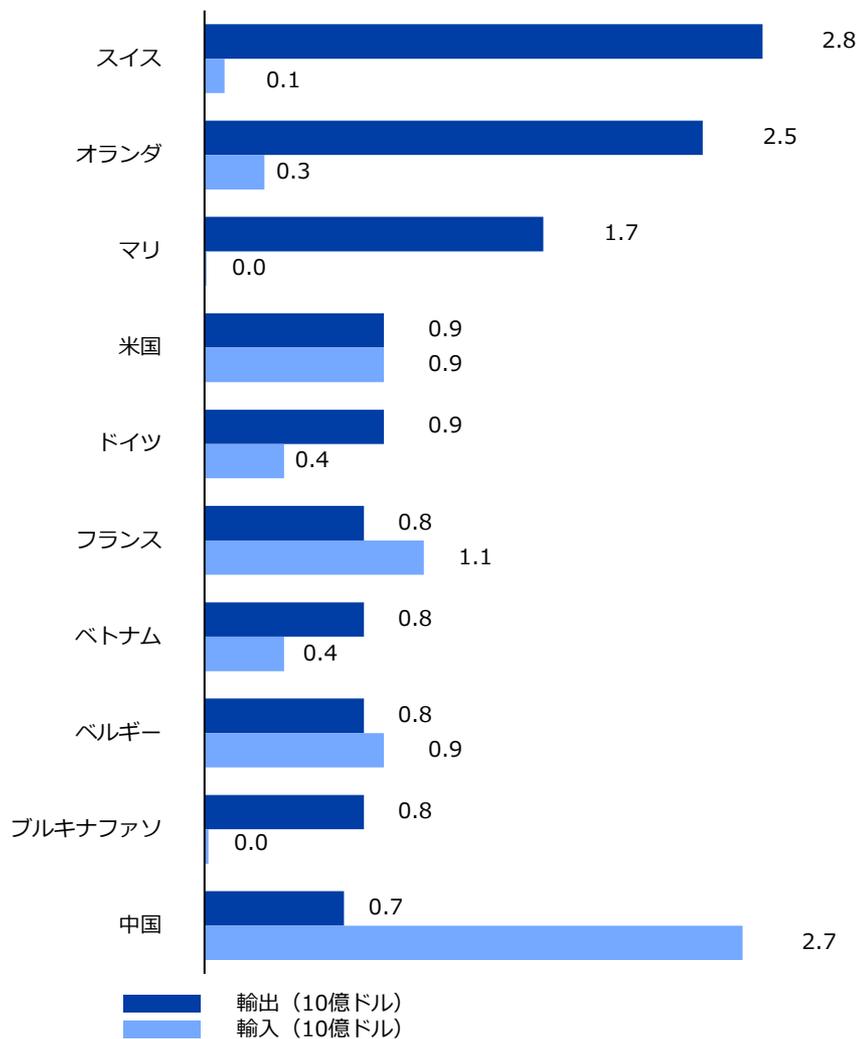
• コートジボワールでは、貿易・物流向けデジタル・シングルウィンドウ (GUCE-CI) などの国家的デジタル化政策と、官民連携による物流人材育成プログラムが進展している。

• EU との経済連携協定 (EPA) は、ココアやその加工品を含むコートジボワール産品のEU 市場アクセスを拡大している。

4 | 主要貿易相手国

- スイスやオランダがコートジボワールの主要な輸出先である一方、輸入は中国が最多である。

貿易統計 (2024年)



5 | 主要貿易ルート



- アビジャン港は、西アフリカ地域における重要な海上ハブである。特にマリ、ブルキナファソ、ニジェールなどの内陸国にとって主要な玄関口となっており、鉄道・道路ネットワークと連携した物流ルートを通じて、域外との貿易を支えている。
- 道路、港湾、鉄道などの物流インフラが強化され、複数の交通手段を組み合わせた輸送の整備が進み、物流のボトルネック解消に向けた取り組みが進展している。さらに、アビジャンーラゴス回廊の起点という地理的優位性も相まって、同国の貿易能力と地域競争力の向上が期待される。

(注) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。
 (出所) UNCTAD, GlobalData

6 | 主要な今後のプロジェクト



NO.	プロジェクト名
1	アビジャン – ラゴス回廊計画
2	ヤムスクロ – ワガドゥグ高速道路計画 (ブアケ – フェルケセドゥグ間)
3	マン – クイブリー – ギーグロ – タイ道路計画
4	ブアケ – カナウォロ高速道路計画 (ブアケ – ダラコカ間)
5	ブアケ – ブアンドゥグ – テイエニンブエ道路計画

①アビジャン – ラゴス回廊計画

コートジボワールからナイジェリアまで5カ国を結ぶ約1,000kmの国際幹線道路を整備し、主要港湾と各国の首都を接続することで、域内物流の効率化を図る。コートジボワールを含む西アフリカ地域の貿易・物流の変革が期待される。

②ヤムスクロ – ワガドゥグ高速道路計画

コートジボワールの南北を結ぶルート強化し、さらにブルキナファソやマリなどの内陸国とアビジャン港を結ぶ輸送条件を改善することで、域内物流の効率化を図る。

(注1) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。

(注2) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) MEED Projects、GlobalData

7 | 主要な物流ハブ

- コートジボワールでは、国際的な環境認証を取得した物流拠点など、国際水準の物流インフラ整備を通じて、物流の効率化・高度化が図られている。



物流拠点	面積	主な機能
IPF商業・物流パーク	12万㎡	自動車部品・電気機器対応
アジリティ流通団地	47万㎡	消費財・小売・製造対応
アビジャン経済産業プラットフォーム (PEIA) (開発中)	440万㎡	農産物・医薬品対応

IPF商業・物流パーク：アビジャン港に隣接して立地し、低温冷蔵倉庫、急速凍結ライン、複数の物流倉庫を備えた総合商業・物流拠点である。包括的なコールドサプライチェーンを活用した水産物の輸入に加え、カシューナツの調達・加工・物流・輸出まで一体的に対応している。

アジリティ流通団地：国際金融公社（IFC）の国際的な環境認証であるEDGE Advancedを、西アフリカで初めて取得した先進的な物流拠点である。アビジャン港と内陸輸送ネットワークを結ぶ高品質な流通基盤として機能する。

アビジャン経済産業プラットフォーム（PEIA）：農産物加工や軽工業を中心とした産業集積を目指す、大規模な産業・物流ゾーンの構想。

（注1）地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。

（注2）プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

（出所）GlobalData

8 | 主要インフラ

施設名	年間貨物取扱能力	拡張計画	公式ウェブサイト
フェリックス・ウフェ・ボワニ (アビジャン) 国際空港	—	—	https://www.abidjan-aeroport.com/
アビジャン港	3,470万トン	穀物バース建設計画 (日本政府融資)	https://www.portabidjan.ci/en
サンペドロ港	700万トン	—	http://www.sanpedro-portci.com

9 | 政府のビジョン・戦略・規制

政府のビジョンと戦略

農産物の付加価値向上

コートジボワール政府は、特にカシューナッツなどの主要農産物について、国内加工の拡大による付加価値向上を産業変革の柱として進めている。これを支える基盤として、物流・貿易の接続性向上を目的とした道路整備が進展している。

貿易ワンストップシステムの強化

輸入手続きの統合や、積荷目録・輸送許可証の電子申請、海上・陸上貨物の通関時間短縮を目的として、コートジボワール政府は貿易ワンストップシステム（GUCE-CI）を継続的に拡充している。GUCE-CI は港湾効率化と密接に連動し、貿易円滑化を支える中核的なデジタル基盤となっている。

港湾・物流インフラの近代化

コートジボワール政府は、西アフリカ地域での競争力を高めるため、アビジャン港の近代化と容量拡充を継続している。2025年6月には、新ターミナルで全長400メートルの大型船（MSCディレッタ号）の寄港を実現し、港湾拡張の成果が示された。さらに、港湾と内陸部をつなぐ物流ネットワークの強化も進む。2025年5月には、アフリカ・グローバル・ロジスティクス（AGL）が今後5年間で6,700万ドル以上を投資し、国内各地に物流センターを整備する計画を発表した。また、同年10月には、多国間開発金融協力センター（MCDF）が、港と内陸間の貨物輸送をバージ（小型貨物船）で行う仕組みづくりに向けて、アジアインフラ投資銀行（AIIB）が実施する事前調査のための429万ドルの助成金を承認した。

主要な関連規制

港湾関連

2024年5月には、港湾運営の迅速化を目的とする政令が採択され、港湾管理の枠組みや関税・手数料の透明性、港湾保安規則の強化が図られた。

10 | 主要プロジェクト

プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
アビジャン - ラゴス回廊計画	西アフリカ諸国経済共同体	道路	計画中
ヤムスクロ - ワガドゥグ高速道路計画 (ブアケーフェルケセドゥグ間)	西アフリカ経済通貨同盟、コートジボワール陸運交通総局	道路	計画中
マン - クイブリー - ギーグロ - タイ道路計画	コートジボワール設備・道路整備省	道路	計画中
ブアケ - ブアンドゥグ - テイエニンブエ道路計画	コートジボワール設備・道路整備省	道路	計画中
アビジャン高速バスシステム計画	コートジボワール運輸省	道路	建設中
ブアケ - カナウォロ高速道路計画 (ブアケ - ダラコカ間、コボ - カナウォロ間)	イスラム開発銀行	道路	計画中
ブアケ - カナウォロ高速道路計画 (ダラコカ - コボ間)	西アフリカ開発銀行	道路	計画中
高度道路交通システム (ITS) 計画	コートジボワール陸運交通総局	道路	計画中
カバラ川 (リベリア・コートジボワール国境) 橋梁計画	西アフリカ諸国経済共同体	橋梁	建設中
バマコ - ザンティエブグ - ブーンディアリ - サンペドロ回廊 (PR8) 計画	西アフリカ諸国経済共同体、西アフリカ経済通貨同盟、欧州連合	道路	建設中

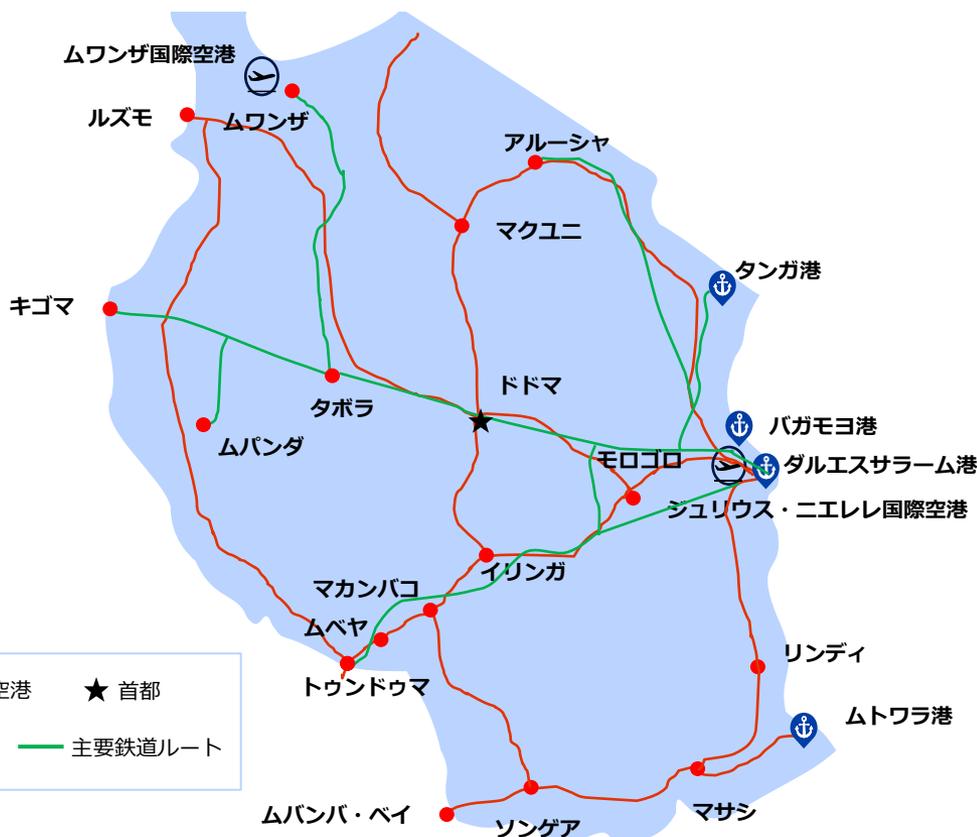
(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

IV. タンザニア

1 | インフラ分析（計画含む）

- タンザニアは、主要港湾・道路・鉄道の整備を進めることで、地域間の接続性を強化し、物流ネットワークを向上させている。



区分	現状の規模
港湾	2,647万8,241トン (2023年)
道路	18万1,190.1 km 国道：3万7,435.04 km 地方道路：14万4,429.77 km

(注1) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。なお、各ルートには建設中・計画中の区間が含まれる場合がある。

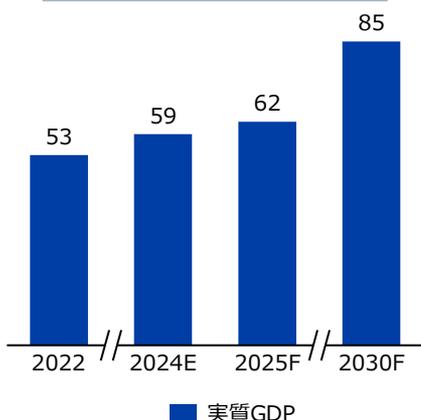
(注2) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

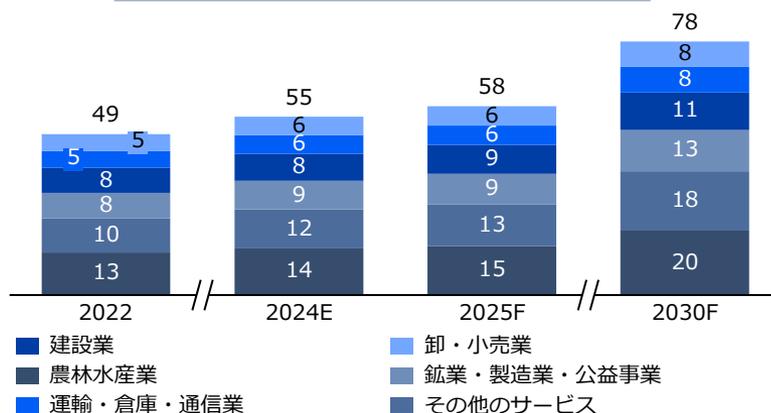
2 | マクロ経済概観

- タンザニア経済は安定した成長を続けており、GDPの拡大、貿易の拡大、人口増加が、多様な産業分野の発展を後押ししている。

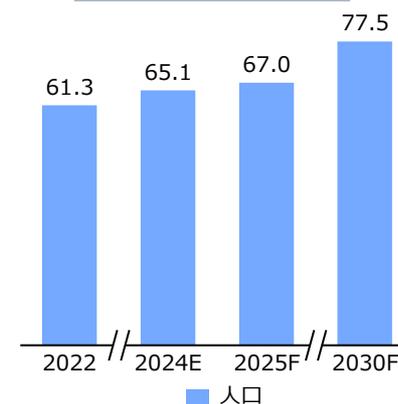
実質GDP（10億ドル）



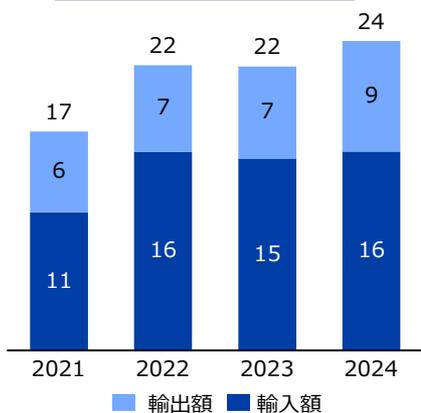
産業別実質付加価値額（10億ドル）



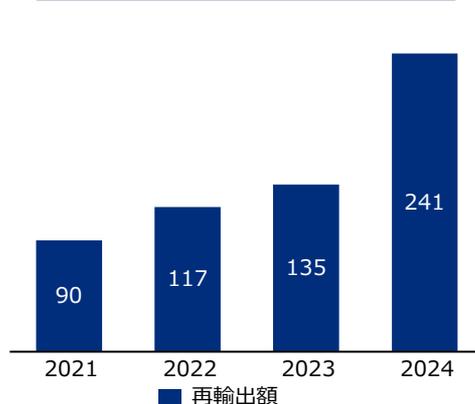
人口（100万人）



貿易額（10億ドル）



再輸出貿易額（100万ドル）



主要輸出入品目（2024年）

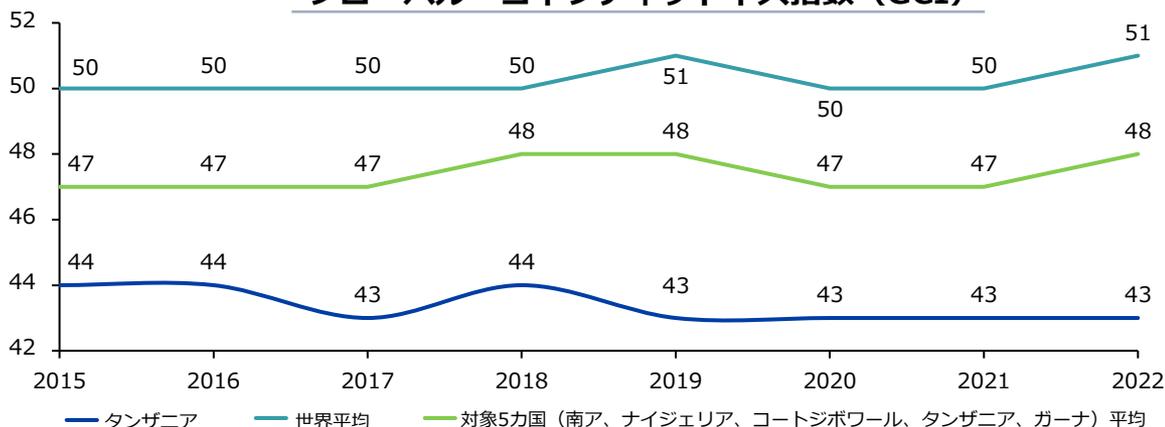
輸出品目	構成比	輸入品目	構成比
貴金属・貴石類 (真珠・宝飾品・コインを含む)	42.5%	鉱物燃料・石油	19.9%
食用果実・ナッツ類	7.1%	鉄道以外の車両	11.2%
タバコ・タバコ製品	6.3%	機械類 (部品・ボイラー等を含む)	10.8%
食用野菜・特定の根菜類	4.5%	電気機器およびその部品	6.5%
その他	39.6%	その他	51.6%
輸出総額：87億ドル		輸入総額：157億ドル	

(注) Eは暫定値、Fは予測値を表す。
(出所) ITC、GlobalData

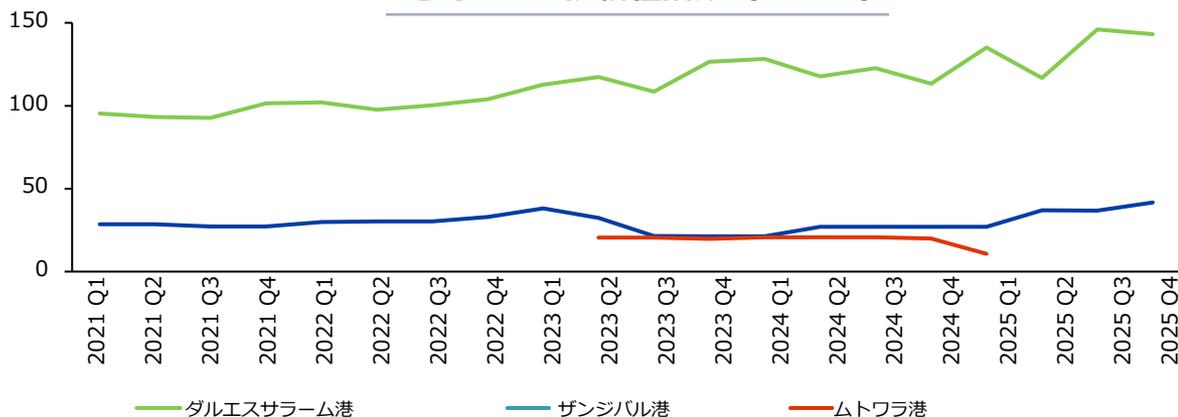
3 | 貿易・物流接続性

- タンザニアのダルエスサラーム港の拡張により、国内外との輸送ネットワークの接続性が強化されている。

グローバル・コネクティッドネス指数 (GCI)



港湾定期船接続性指数 (PLSCI)



・タンザニア政府はトレードマーク・アフリカ (TMA) と連携して、国家貿易政策 (NTP) 2023年版を策定し、貿易のデジタル化、通関手続きの円滑化、ダルエスサラーム港におけるスマートゲート導入などを通じて、国境を越えた物流の効率向上を図っている。

・EUのグローバル・ゲートウェイ戦略に基づくダルエスサラーム港の近代化協定は、低炭素輸送への移行を支援し、貿易効率と環境持続性を高めることで、タンザニアの海運ネットワークにおける持続可能な成長機会を創出している。

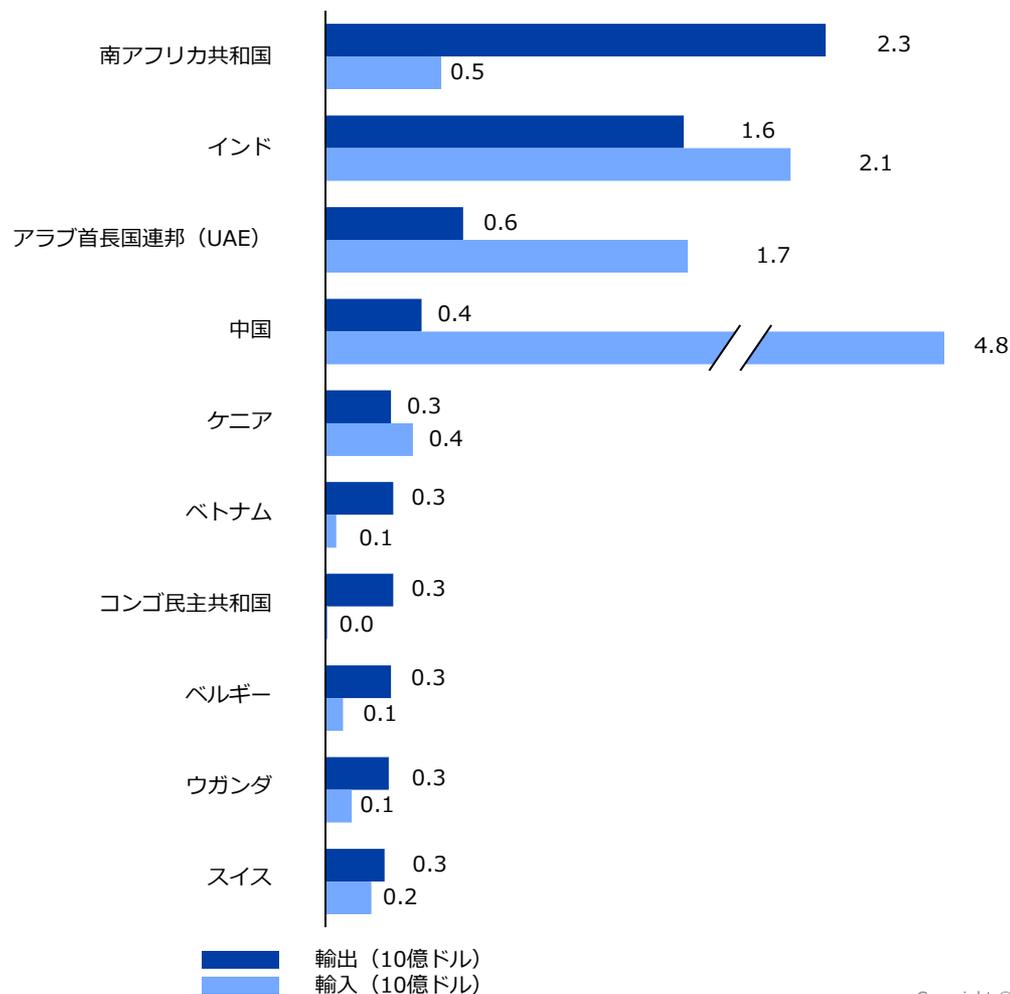
・中国企業の大規模投資によってダルエスサラームに開設された商業・物流センター (EALCLC) は、貨物取扱いの効率化や通関・物流の迅速化を図り、近隣内陸国との貿易連結性の強化が期待される。

・2024年にタンザニア政府はインド企業アダニ・ポートと、ダルエスサラーム港第2コンテナターミナルの運営・管理に関する30年間のコンセッション契約を締結した。

4 | 主要貿易相手国

- タンザニアの主要な貿易相手国はアフリカとアジアに広がっており、南ア、インド、UAE、中国が主な輸出先となっている。一方、輸入では中国の存在感が際立っている。

貿易統計（2024年）



5 | 主要貿易ルート



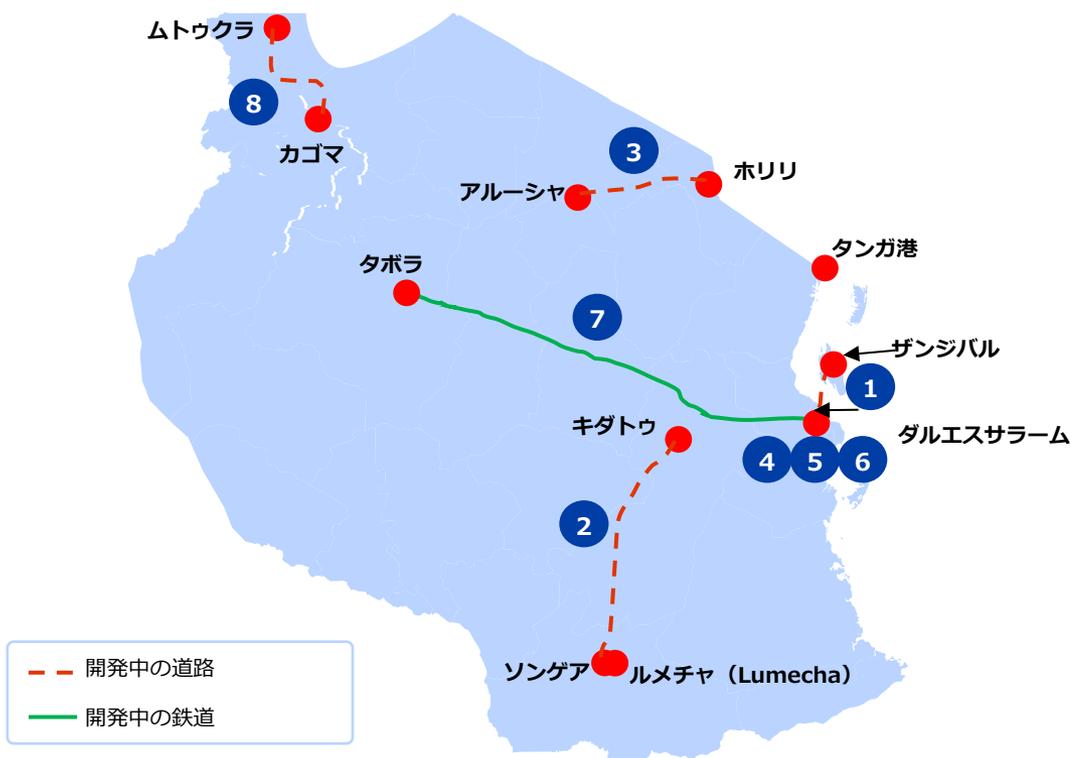
📍 目的地港
 — 既存の陸上輸送ルート
 - - - 開発中の陸上輸送ルート
 📍 出発港
 — 海上輸送ルート
 ● 主要都市

- タンザニアのダルエスサラーム港は東アフリカの主要な玄関口として機能しており、ザンビアやコンゴ民主共和国などの内陸国にとってインド洋へ直結する海上輸送ルートの要所となっている。港湾の近代化や鉄道・道路網の整備により、内陸部で産出される銅・コバルトなどの鉱物資源を港まで効率的に運搬できる見通しであり、アフリカ南部を経由するルートと比べて、アジア向けのより短距離輸送ルートの形成が期待されている。
- タンザニアを起点とする中央回廊などの道路・鉄道網は、輸入品を東・中央アフリカの内陸国へ効率的に流通させ、同地域の工業生産を支える重要な物流基盤となっている。また、モンバサ回廊と比べて混雑が少ない代替ルートとしても機能している。

(注) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。

(出所) UNCTAD、GlobalData

6 | 主要な今後のプロジェクト



NO.	プロジェクト名
1	ダルエスサラーム - ザンジバル橋梁計画
2	キダトゥ - ルメチャ (Lumecha) ・ソングア道路建設計画
3	アルーシャ - ホリリ道路改修計画
4	ダルエスサラームバス高速輸送システム (DART) 計画
5	ダルエスサラーム港コンテナターミナル改修計画 (バース8~11)
6	ダルエスサラーム港コンテナターミナル建設計画 (バース12~15)
7	標準軌鉄道 (SGR) 整備計画 (ダルエスサラーム - タボラ間)
8	ムトゥクラ - ブコバ - ムフトウェ - カゴマ道路改良計画

①ダルエスサラーム - ザンジバル橋梁計画

ダルエスサラームとザンジバルを結ぶ、アフリカ最大規模となる全長約50kmの建設計画。本計画により両地点が陸路で直接接続され、移動時間と物流コストの大幅な削減、ダルエスサラームの物流回廊としての地位向上、ザンジバル諸島における観光と貿易の促進が期待されている。

②キダトゥ - ルメチャ (Lumecha) ・ソングア道路建設計画

タンザニア南部を縦断する、総延長約436kmの幹線道路を整備する計画。道路接続性の向上と輸送効率の改善により、貨物輸送コストの削減が期待される。また、ザンビア、マラウイ、モザンビークなど周辺国との越境貿易の円滑化も見込まれる。

⑦標準軌鉄道 (SGR) 整備計画 (ダルエスサラーム - タボラ間)

タンザニア政府が進める標準軌鉄道 (SGR) 整備計画の中核区間であり、現在メーターゲージ (1,000mm) で運行されている区間を、標準軌 (1,435mm) で再整備するプロジェクトである。全区間が完成すれば、内陸部へのバルク貨物輸送の安定化と効率化が進み、タンザニア国内物流および東アフリカ地域貿易の一層の促進が期待される。

(注1) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。

(注2) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) MEED Projects, GlobalData

7 | 主要な物流ハブ

- ダルエスサラーム周辺では、倉庫・物流・貿易機能が集積し、輸出主導型産業を支える拠点として整備が進んでいる。

 物流拠点



物流拠点	面積	主な機能
ETCカーゴ	約3万2,000㎡	農産品など対応
ヘス・インベストメント	約3万5,000㎡	輸出入コンテナ取扱
東アフリカ商業・物流センター (EACLC)	約7万5,000㎡	農産品・工業製品・消費財対応
ジェファグ・ロジスティクス	約2万㎡	輸出入コンテナ取扱

ヘス・インベストメント：内陸コンテナデポ（ICD）およびコンテナ・フレート・ステーション（CFS）は、ダルエスサラーム港近郊に位置し、輸入・輸出コンテナの保管、詰め替え、税関手続きに対応している。また、国内輸送・越境輸送サービスも提供しており、地域の物流機能を支える拠点となっている。

東アフリカ商業・物流センター（EACLC）：タンザニア最大の商業・物流複合施設で、商業区画と倉庫・保管・配送などの物流機能を提供している。中国企業が開発を支援し、東アフリカ地域のサプライチェーン強化を後押しする拠点となっている。

（注1）地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。

（注2）プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

（出所）GlobalData

8 | 主要インフラ

施設名	年間貨物取扱能力	拡張計画	公式ウェブサイト
ジュリウス・ニエレレ国際空港	10万トン	—	https://www.daressalaafairport.com/
ムワンザ国際空港	—	—	—
タンガ港	300万トン	—	https://www.ports.go.tz/index.php/en/ports/tanga-ports
ダルエスサラーム港	2,770万トン	混雑緩和に向けた 港湾改修計画	https://www.ports.go.tz/index.php/en/ports/dar-es-salaam-ports
ムトワラ港	170万トン	—	https://www.ports.go.tz/index.php/en/ports/mtwara-ports
バガモヨ港（開発中）	—	2045年までに 2,000万TEU処理能力への拡張計画	—

9 | 政府のビジョン・戦略・規制

政府のビジョンと戦略

インフラ投資の重点化

タンザニア政府は2023/24年度予算で道路・港湾・鉄道・空港など基幹インフラへの投資を重点化し、国内外物流の強化を国家的優先事項としている。

鉄道の近代化と標準軌鉄道（SGR）推進

タンザニア政府は、貨物輸送の効率化とコスト削減を目的として、道路依存から鉄道への転換を進め、標準軌鉄道（SGR）の整備と主要鉄道回廊の近代化を加速している。最近では、国境を越える鉄道整備も進展しており、2025年8月16日にはタンザニアのウビンザとブルンジのムソングティを結ぶ総延長240kmの国境横断鉄道が、総事業費21.5億ドルで正式に着工された。この新路線により、ブルンジ最大の商業都市ブジュンブラへのアクセスが向上し、ダルエスサラームとブジュンブラ間の輸送時間は従来の96時間から20時間へ大幅に短縮される見込みである。さらに将来的には、同路線を活用した鉱物輸出の拡大や、コンゴ民主共和国（DRC）および大西洋方面への延伸も検討されている。

主要な関連規制

官民連携（PPP）関連

2023年に官民連携法および関連規則が改正され、プロジェクトの審査・承認プロセスの効率化、銀行融資可能性の向上、リスク配分手続きの整備、紛争解決手続きの明確化など、PPPの法的枠組みが強化された。これにより、港湾や標準軌鉄道（SGR）、有料道路といった大規模インフラ案件の実施に向けた制度的基盤の改善が図られている。

調達関連

2023年～2024年の公共調達制度の更新により、インフラ案件での電子入札が可能となり、手続きの合理化が進められた。調達手続きを東アフリカ共同体（EAC）基準に整合させる方向性が示されている。

港湾関連

港湾運営の効率化に向け、港湾料金体系やコンセッション枠組みの見直し、港湾と税関の情報共有の強化など、港湾運営に関する制度改善が2023年～2025年にかけて進められている。これらにより、物流効率の向上や港湾滞留時間の短縮が図られている。

鉄道関連

鉄道分野では、2023年～2025年に、事業者・機関の役割分担の明確化や民間事業者の参入を促進する枠組みが進められている。

（出所） GlobalData

10 | 主要プロジェクト (1)

プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
ムトワラ空港改修計画	タンザニア空港公社 (TAA)	空港	建設中
イリンガ空港改修計画フェーズ2	タンザニア空港公社	空港	建設中
タンガ空港改修計画	タンザニア道路公社 (TANROADS)	空港	計画中
マニヤーラ湖空港改修計画	タンザニア道路公社	空港	建設中
マンガプワニ多目的港計画	ザンジバル港湾公社 (ZPC)	港湾	計画中
キゴマ港改修計画	タンザニア港湾公社	港湾	建設中
ダルエスサラーム港コンテナターミナル改修計画 (バース8~11)	タンザニア港湾公社	港湾	計画中
ダルエスサラーム港コンテナターミナル建設計画 (バース12~15)	タンザニア港湾公社	港湾	計画中
ウビンザ - ムソンガティ (ブルンジ) - ギテガ (ブルンジ) 鉄道計画 (ウビンザ - ムソンガティ間)	タンザニア鉄道公社 (TRC)	鉄道	建設中
標準軌鉄道 (SGR) 整備計画 (ダルエスサラーム - タボラ間) フェーズ2	タンザニア鉄道公社	鉄道	計画中

(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

10 | 主要プロジェクト (2)

プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
ムトワラ - ムバンバ湾 (ムバンバ・ベイ) 鉄道計画	タンザニア鉄道公社	鉄道	計画中
ダルエスサラーム - ザンジバル橋梁計画	タンザニア道路公社	橋梁	計画中
ジャンワニ橋梁計画	タンザニア道路公社	橋梁	建設中
ダルエスサラームバス高速輸送システム (DART) 計画フェーズ3	ダルエスサラーム高速輸送庁 (DART)	道路	建設中
ダルエスサラームバス高速輸送システム (DART) 計画フェーズ4、5、6	ダルエスサラーム高速輸送庁	道路	計画中
キハンシ - ムリンバ - タウェタ - マデケ - ルペンベ - キベナ地域道路建設計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
オムガコロンゴ - キガラム - ムロンゴ道路改良計画 (ブシンデ - ムロンゴ間)	タンザニア道路公社	道路	計画中
ニャンクンブ - ニャンガワレ - ハルムワ - ニャンゴホンゴ - ニャンブラ・カハマ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
マカンバコ - ソンゲア道路改良計画 (第3区間: ルトゥキラ - ソンゲア)	タンザニア道路公社	道路	計画中
ムトワラ - ミンゴヨ - マサシ道路改良計画 (第1区間: ムトワラ - ミンゴヨ)	タンザニア道路公社	道路	建設中

(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

10 | 主要プロジェクト (3)

プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
ムトワラ - ミンゴヨ - マサシ道路改良計画 (第2区間：ミンゴヨ - マサシ)	タンザニア道路公社	道路	計画中
イソンゴレII - カスムル - イピャナ - カタウンバソング地域道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	建設中
リクユフシ - ミトモニ道路改良計画 (第1区間：リクユフシ - ムカユカユ)	タンザニア道路公社	道路	計画中
キタイ - リトウヒ道路改良工事計画 (第2区間：ルアンダ - ヌンビ港)	タンザニア道路公社	道路	計画中
キダトウ - ルメチャ (Lumecha) ・ソングア道路建設計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
アルーシャ - ホリリ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
アルーシャ - キバヤ - コンワ道路建設計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
マフィンガ - ムワンゴ道路建設計画	タンザニア道路公社	道路	建設中
バリディ - サラマ - ンガヤ - マグ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
ンチュカ - マピンデジュ道路改良計画 (第1区間：ンチュカ - ムヴミ病院 - キコンボ)	タンザニア道路公社	道路	建設中

(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

10 | 主要プロジェクト (4)

プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
モロゴロ (ビグワ) - ムヴハ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
イガワ - ウヨレ - ソンウェ - トウンドウマ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	建設中
キバハ - チャリンゼ有料高速道路建設計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
サメ - キシワニ - ムコマジ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	建設中
キバオニ - シタリケ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	建設中
カグウィラ - イコラ - カレマ港道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	建設中
モロゴロ - メレラ - イヨヴィ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
チャリンゼ - マンガ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
バリヤディ - キセサ - ムワンドヤ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
イリンガ - カレンガ - ムセンベ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	建設中

(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

10 | 主要プロジェクト (5)

プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
コンガジャンクション - ンガンビ - ムプワプワ - グルウェ - キバクウェ道路改良計画 (第2区間: ムプワプワ - グルウェ - キバクウェ)	タンザニア道路公社	道路	計画中
キバダ - ムワソンガ - キンビジ道路建設計画	タンザニア道路公社	道路	建設中
イファカラ - キハンシ道路改良計画 (第1区間: イファカラ - ムビンギ)	タンザニア道路公社	道路	建設中
キボンド - マバンバ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
ルアンワ地区道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
ハンデニ地区道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
センゲレマ - ニエフンゲ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
ドドマ市内環状道路建設計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
イファカラ - キハンシ道路改良計画 (第2区間: ムビンゴ - チタ)	タンザニア道路公社	道路	計画中
カタンバ - ムバンボ - トウクユ道路計画 (第3区間: カタンバ - ルバソ)	タンザニア道路公社	道路	建設中

(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

10 | 主要プロジェクト (6)

プロジェクト名	主要な関係機関	業種	プロジェクト状況
スングシラ - ンゼラ - ンコメ道路改良計画	タンザニア道路公社	道路	計画中
マサカ - クムナジ道路建設計画	東アフリカ共同体 (EAC)	道路	建設中
ルベリジ - カマニョラ - ブカブ道路改良計画	中央回廊輸送円滑化機関	道路	計画中
ニエレレ国立公園道路整備計画	タンザニア天然資源観光省	道路	計画中
ムボグウェ地区道路改良計画	タンザニア農村都市道路庁	道路	計画中
ムパンダにおける都市インフラ整備計画	ムパンダ市議会	その他	計画中

(注) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。変更や中止となる場合もあるため、詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

V. ガーナ

1 | インフラ分析（計画含む）

- ガーナはギニア湾に面し、テマ港・タコラディ港を有する。これら港湾と内陸部・周辺国を結ぶ物流の強化には、継続的な鉄道整備が重要である。



区分	現状の規模
港湾	170万1,246TEU (2024)
道路	9万4,203km 舗装道路：2万5,435km 未舗装道路：6万8,768km

(注1) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。なお、各ルートには建設中・計画中の区間が含まれる場合がある。

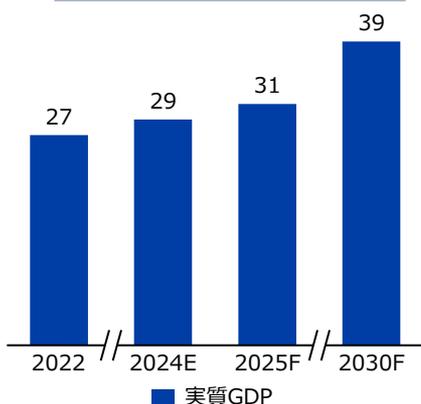
(注2) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。なお、ガーナは2022年以降、事実上の債務不履行（デフォルト）状態にあり、今後、対象プロジェクトが変更、凍結、または中止となる可能性がある。詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) UNCTAD、GlobalData

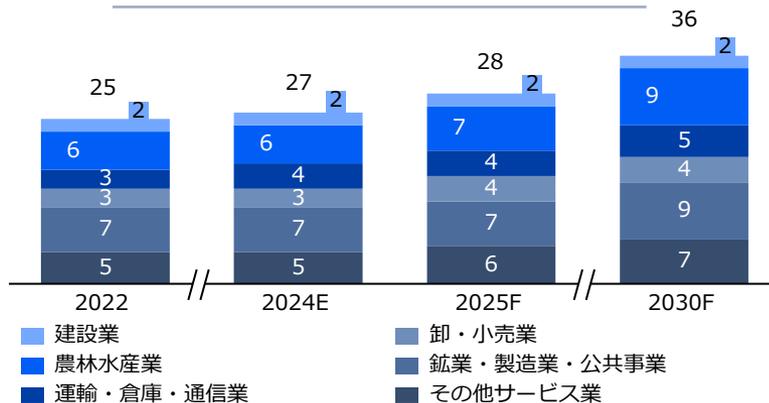
2 | マクロ経済概観

- ガーナは2022年以降、事実上の債務不履行（デフォルト）状態である。貿易では、金などの主要資源・一次産品に支えられている一方で、機械等への輸入依存度が高い。

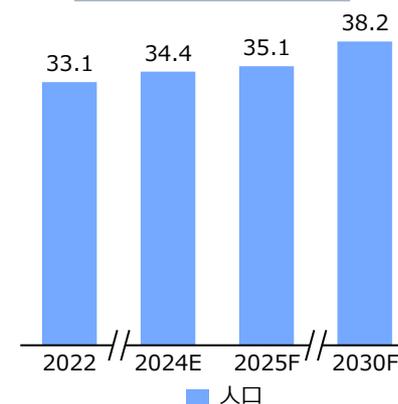
実質GDP（10億ドル）



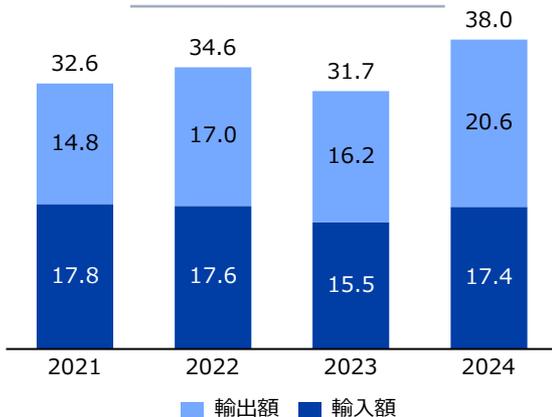
産業別実質付加価値額（10億ドル）



人口（100万人）



貿易額（10億ドル）



主要輸出入品目（2024年）

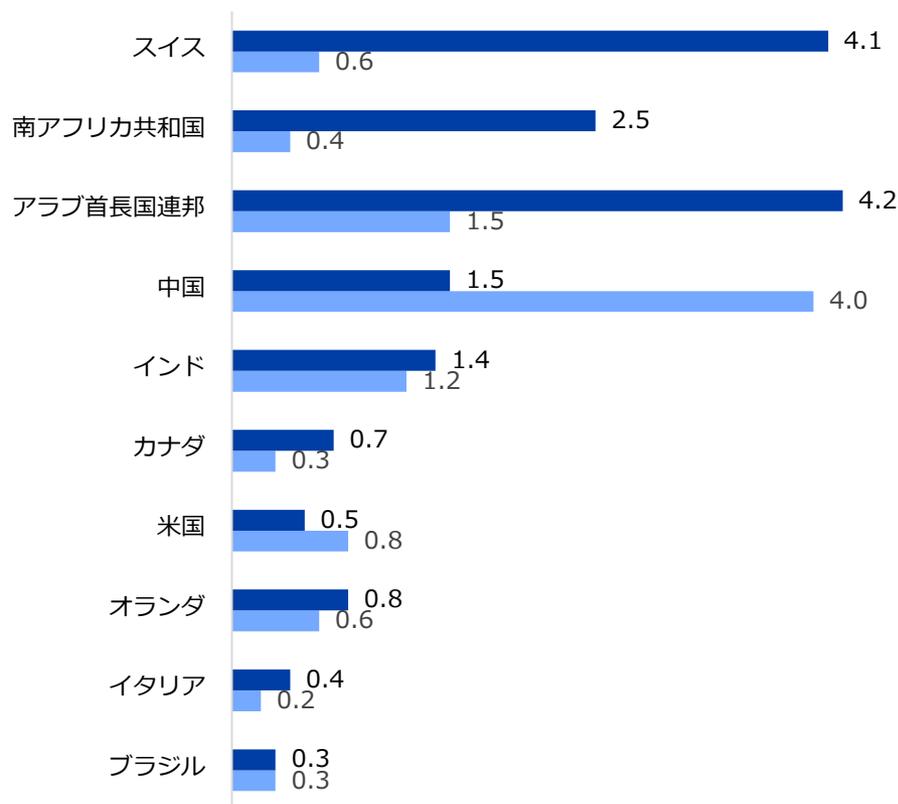
輸出品目	構成比	輸入品目	構成比
貴金属・貴石類 (真珠・宝飾品・コインを含む)	55.4%	機械類 (部品・ボイラー等を含む)	25.7%
鉱物燃料・石油	18.4%	鉱物燃料・石油	11.5%
ココア・ココア製品	9.7%	鉄道以外の車両	9.9%
鉄鋼	1.9%	プラスチック製品	4.6%
その他	14.6%	その他	48.3%
輸出総額：206億ドル		輸入総額：174億ドル	

(注) Eは暫定値、Fは予測値を表す。
(出所) ITC、GlobalData

3 | 主要貿易相手国

- ガーナの主要な貿易相手国では、輸出先としてはアラブ首長国連邦（UAE）が42億ドル、輸入先では中国が40億ドルで、それぞれ最多を占める。

貿易統計（2024年）



■ 輸出 (10億ドル)
■ 輸入 (10億ドル)

4 | 主要な物流ハブ

- ガーナでは、テマ輸出加工区（TEPZ）をはじめとする産業・物流拠点に、製造・倉庫・物流機能の集積が進められており、地域貿易を支える拠点として位置づけられている。



物流拠点



物流拠点	面積	主な機能
アジリティ流通団地	16万2,000㎡	消費財・小売・自動車対応
アポロニア工業団地	80万9,000㎡	製造・加工・保管・物流
セコンディ輸出加工区	80万㎡	産業用鋳物加工
テマ輸出加工区 (TEPZ)	約485万6,000㎡	一般倉庫・軽工業向け

- ガーナの自由区制度の旗艦的拠点であるテマ輸出加工区（TEPZ）は、港湾都市テマに位置する多目的輸出加工区であり、テマ港や空港への良好なアクセスを備えている。区域内外を結ぶ道路網、上下水道、通信、電力供給などの基礎インフラも整備されている。
- テマ港とその周辺の自由区・物流拠点は、製造業や貿易を支える物流基盤として機能しており、ブルキナファソ、マリ、ニジェールなど内陸国向けの貿易にも対応している。

(注1) 地図上の都市やルートはおおよその位置を指す。

(注2) プロジェクトの選定や記載の数値は、委託先が収集した情報に基づく。なお、ガーナは2022年以降、事実上の債務不履行（デフォルト）状態にあり、今後、対象プロジェクトが変更、凍結、または中止となる可能性がある。詳細・最新状況については、個別に確認する必要がある。

(出所) GlobalData

5 | 主要インフラ

施設名	年間貨物取扱能力	拡張計画	公式ウェブサイト
アクラ（コトカ）国際空港	—	追加で10機の駐機スポット建設計画	https://www.gacl.com.gh/passengers-guide/
タコラディ港	—	船舶修繕・保守機能の拡張（浮きドック整備）計画	https://ghanaports.gov.gh/page/index/15/EXKGB1KA/Welcome-Message
テマ港	250万TEU	—	https://ghanaports.gov.gh/page/index/4/ZE4GGQFA/Welcome-to-Port-Of-Tema

レポートをご覧いただいた後、 アンケートにご協力ください。

(所要時間：約1分)

<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20250060>



レポートに関するお問い合わせ先

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部 中東アフリカ課



03-3582-5180



ORH@jetro.go.jp



〒107-6006

東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル6階

■ 免責条項

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

禁無断転載